

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	子どもの保健
授業コード	AI324
英語名称	Studies of Child Health
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	三宅 美千代
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	<p>子どもの保健は、子どもの日常生活を実践の場とし、子どもの健康の維持・増進を目的としています。常に成長・発達する子どもの健康の維持・増進につとめられるよう、身体的・社会的・精神的側面から子どもの特徴や発育の過程、健康状態の把握の方法を理解するとともに、子どもに特有な症状や疾病とその予防法や対応の仕方について理解していきます。また、現代の複雑多様な社会背景や環境の中で、子どもを守る保育者の在り方を考え、健やかな子どもの育ちを支え、保育施設の子どものみならず、地域の子どもの保育支援アドバイザーとしての自覚を持ち、多職種間の連携・協働のもとで適切なコミュニケーションを取りながら、より良い社会に貢献できる保育者となることを目指します。</p>
科目に関連する実務経験と授業への活用	<p>保育士・看護師の資格を持つ教員が、小児病棟や保育所等における実務経験と知識・技術を生かして指導する。</p>
到達目標	<p>本科目は、こども学科が定めるディプロマ・ポリシー「2. 教育・保育に求められる専門知識と技能を体系的に理解するとともに、子どもに関する情報を分析し、子どもの育ちに即した教育及び保育方法を実践することができる。【知識・技能】」及び「4. 生命への思いやりをもって子どもと接し、子どもに対する観察・理解力を身に付けるとともに、発達や育ちを基に指導計画を作成し、省察・改善することができる。【人間力・指導力】」の習得のため、以下について系統立てて理解し、保育の対象である子どもの理解を深め、自らの保育として実践する力を養う。</p> <p>子どもの身体的・社会的・精神的特徴や成長発達の過程を説明できる。 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 子どもに特有な症状や疾病と、その予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。 ・子どもを取り巻く社会的問題に関心を持ち、地域における子育て支援に寄与できる。</p>
計画・内容	<p>第1回 授業オリエンテーション 「子ども」の定義と権利 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題・ 地域における保健活動 地域社会全体で支える子育て</p> <p>第2回 ヒトのからだを構成している要素 脳の発達 子どもの成長と発達</p> <p>第3回 循環器・呼吸器の発達 バイタルサイン</p> <p>第4回 消化器の発達 消化・吸収</p> <p>第5回 腎臓の発達 排泄 水分代謝と水分出納</p> <p>第6回 免疫のしくみ</p> <p>第7回 感覚器官</p>

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	<p>眼、耳、鼻、口、皮膚</p> <p>第8回 子どもの基本的な生活習慣・ 10の姿がめざすもの</p> <p>第9回 子どもの健康及び成長・発達の把握の意義</p> <p>第10回 子どもによくみられる症状(1) 不機嫌、発熱、咳・鼻水、痛み、発疹</p> <p>第11回 子どもによくみられる症状(2) 嘔吐、下痢、便秘、痙攣、脱水</p> <p>第12回 感染症の発症 感染症の予防 予防接種</p> <p>第13回 子どもにみられる主な感染症とその分類 医師が意見書を記入することが考えられる感染症 医師の診断を受け、保護者が登園届を記入することが考えられる感染症</p> <p>第14回 子どもによくみられる病気 先天性の疾患 アレルギー疾患 血液・内臓の疾患・ 神経・精神疾患 その他の疾患</p> <p>第15回 授業の振り返りとまとめ</p>
授業の進め方	<p>講義形式が中心となりますが、グループディスカッションやプレゼンテーションを取り入れ、各自の考えを発言し、グループ内における意見を統合し発表を行い、みんなで共有する時間を設けます。また、パワーポイントや動画、画像等を用い、視覚的にも分かりやすく授業を充実させます。</p>
能動的な学びの実施	<p>子どもを取り巻く環境や社会に常に目を向け、子どもが置かれている現状や問題点、健康や保健に関する情報を入手し、自分なりの意見をまとめ考察を行い、毎回の授業初めに発表してもらいます。</p>
授業時間外の学修	<p>授業前に教科書の該当箇所を読み、専門的で分からない言葉等は事前に調べておいてください。また、関連するガイドラインや近年のデータを読み、学習内容の課題を明確にして望んでください。授業後には毎回授業の学び自分なりに整理し、知識を定着させてください。(合計60時間程度)</p>
教科書・参考書	<p>【教科書】 『イラスト子どもの保健・健康と安全(第2版)』東京教学社、2025。 【参考書】 適宜紹介する。</p>
成績評価方法と基準	<p>定期試験(60%) 小テスト・提出物(30%) 授業参加態度(10%)により総合的に成績を評価します。 保育者として相応しくない行動や言動があった場合、評価点から減点します。</p>
課題等に対するフィードバック	<p>毎授業におけるリフレクションペーパー内の質問に対し、次の授業で解説を行います。</p>
オフィスアワー	<p>CampusSquareを参照</p>
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・関連科目である子どもの健康と安全は本科目履修および単位取得が履修条件です。 ・配布資料が多いため、A4サイズのファイルを用意しファイリングをし、また専用のノートを作成するなど、自分なりに各回の授業内容を整理してください。 ・実技演習時、長い髪はまとめ、爪を切り、清潔で動きやすい服装等で臨んでください。 ・第1回目の授業でオリエンテーションを行います。必ず出席してください。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>授業の進め方：Zoomで授業内容を講義した後に、各自が課題に取り組み考えをまとめ、オンライン上で意見を発表し、議論します。授業内容の確認小テストを行い、Webフォームに直接入力し、その後解説を行います。</p> <p>zoom授業への参加度(10%)、確認小テスト(20%)、レポート提出(20%)、最終確認試験(50%)により総合的に成績を評価します。</p>

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	子どもの健康と安全
授業コード	AI356
英語名称	Studies of Child Health and Safety
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	三宅 美千代
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	各発達段階における子どもの特徴を理解し、子どもの健やかな育ちを支え、子どもの健康と安全を守るため、保健的観点を踏まえ状況に応じた対応や予防法等、保育者としての安全管理能力を身につけることを目標とします。また、個々の子どもの健康問題や課題を判断し、多職種間で連携・協働しながら、適切な援助を見出す力を身に着けます。
科目に関連する実務経験と授業への活用	保育士・看護師の資格を持つ教員が、小児病棟や保育所等における実務経験と知識・技術を生かして指導する。
到達目標	<p>本科目は、こども学科が定めるディプロマ・ポリシー「2. 教育・保育に求められる専門知識と技能を体系的に理解するとともに、子どもに関する情報を分析し、子どもの育ちに即した教育及び保育方法を実践することができる。【知識・技能】」の習得のため、以下について系統立てて理解し、自らの保育として実践する力を養う。</p> <p>保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 保育所保育指針や関連するガイドライン（「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」「保育所における感染症対策ガイドライン」「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」等）を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。 子どもの体調不良等における適切な対応について、具体的に理解する。 保育における感染症対策について、具体的に理解する。 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。</p>
計画・内容	<p>第1回 授業オリエンテーション 子どもの健康と保育の環境 人的環境としての保育者の役割</p> <p>第2回 保育施設・設備の衛生管理 職員の衛生管理</p> <p>第3回 感染症発生時の対応 食中毒及び感染症拡大の防止</p> <p>第4回 子どもの事故の特徴と現状 危機管理（リスクマネジメント）</p> <p>第5回 災害の分類と特性 災害への備え（防災・減災対策）</p> <p>第6回 身体計測 成長の評価</p> <p>第7回 子どもの病気に対する理解と反応 子どもの病気と子どもの権利</p> <p>第8回 子どもの体調不良に気づく</p>

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	<p>重症度と緊急度を見極める方法</p> <p>第9回 転倒・転落によるけが その他のけが</p> <p>第10回 緊急を要する状況への対応 溺水、誤嚥・誤飲、アナフィラキシーショック、熱中症</p> <p>第11回 エピペンの使い方 救急救命手当</p> <p>第12回 3歳未満児への対応と配慮 SIDS対策、SBS対策、スキンケア 保育所での与薬</p> <p>第13回 身体的なケアが必要な子どもへ保育者ができること 医療的ケアと医療的ケア児</p> <p>第14回 発達支援の必要な子どもへ保育者ができること 神経発達症群の現状 神経発達症群をもつ子どもと保護者への支援</p> <p>第15回 授業の振り返りとまとめ</p>
授業の進め方	<p>講義と演習を交えながら進めていきます。また、実際の場面を想定した演習やロールプレイングを行ない、知識や保育技術・保育実技の定着を図ります。パワーポイントや動画、画像等を用い、視覚的にも分かりやすく授業を充実させます。</p>
能動的な学びの実施	<p>ニュースなどで、子どもに関する事故やけがなどを積極的に入手し、自分なりの意見をまとめ考察を行い、毎回の授業初めに順番に発表してもらいます。</p>
授業時間外の学修	<p>授業前に教科書の該当箇所を読み、専門的で分からない言葉等は事前に調べておいてください。また、関連するガイドラインや近年のデータを読み、学習内容の課題を明確にして望んでください。授業後には毎回授業の学び自分なりに整理し、知識を定着させてください。(合計60時間程度)</p>
教科書・参考書	<p>【教科書】 『イラスト子どもの保健・健康と安全(第2版)』東京教学社、2025.</p> <p>【参考書】 適宜紹介する.</p>
成績評価方法と基準	<p>定期試験(60%) 小テスト・提出物(30%) 授業参加態度(10%)により総合的に成績を評価します。 保育者として相応しくない行動や言動があった場合、評価点から減点します。</p>
課題等に対するフィードバック	<p>毎授業におけるリフレクションペーパー内の質問に対し、次の授業で解説を行います。</p>
オフィスアワー	<p>CampusSquareを参照</p>
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は関連科目である子どもの保健を履修および単位取得していることが履修条件です。 ・配布資料が多いため、A4サイズのファイルを用意しファイリングをし、また専用のノートを作成するなど、自分なりに各回の授業内容を整理してください。 ・実技演習時、長い髪はまとめ、爪を切り、清潔で動きやすい服装等で臨んでください。 ・第1回目の授業でオリエンテーションを行います。必ず出席してください。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>授業の進め方：Zoomで授業内容を講義した後に、各自が課題に取り組み考えをまとめ、オンライン上で意見を発表し、議論します。授業内容の確認小テストを行い、Webフォームに直接入力し、その後解説を行います。</p> <p>zoom授業への参加度(10%)、確認小テスト(20%)、レポート提出(20%)、最終確認試験(50%)により総合的に成績を評価します。</p>

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	乳児保育
授業コード	AI218
英語名称	Infant Care and Education
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	三宅 美千代
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	乳児保育は3歳未満児を対象としているが、3歳未満児とはどのような存在で、いかに発達していくのかを学んでいきます。また、この時期の子どもや保護者と対峙する保育者としての責任や心構えをしっかりと身に着け、乳児保育の望ましい在り方について自身で考え、子どもと保護者を支えることができるように、必要な知識や技術を習得することを目指します。さらに、保育所保育指針の改定の背景となった社会的状況や歴史の変遷を踏まえながら、社会のニーズに合わせた乳児保育の役割を紐解いていきます。
科目に関連する実務経験と授業への活用	保育士・看護師の資格を持つ教員が、小児病棟や保育所等における実務経験と知識・技術を生かして指導する。
到達目標	<p>本科目は、こども学科が定めるディプロマ・ポリシー「2. 教育・保育に求められる専門知識と技能を体系的に理解するとともに、子どもに関する情報を分析し、子どもの育ちに即した教育及び保育方法を実践することができる。【知識・技能】」及び「4. 生命への思いやりをもって子どもと接し、子どもに対する観察・理解力を身に付けるとともに、発達や育ちを基に指導計画を作成し、省察・改善することができる。【人間力・指導力】」の習得のため、以下について系統立てて理解し、保育の対象である子どもの理解を深め、自らの保育として実践する力を養う。</p> <p>乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解する。 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。</p>
計画・内容	<p>第1回 授業オリエンテーション こどもの権利を保障する乳幼児期の保育（1） ウェルビーイング バイオサイコソーシャル 養護と教育が一体になった保育</p> <p>第2回 こどもの権利を保障する乳幼児期の保育（2） 養護と教育に関する基本的事項 生命の保持と情緒の安定 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 子どもの権利</p> <p>第3回 乳児保育の対象と意義 社会から求められる乳児保育</p> <p>第4回 子育て世帯を取り巻く環境 乳児保育で大切なこと</p> <p>第5回 乳幼児の基礎知識（1） 発達の連続性 乳幼児の発育や発達の把握と見守り</p> <p>第6回 乳幼児の基礎知識（2） 健康観察と保育中の留意点</p>

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	<p>感染症予防</p> <p>第7回 保育の計画と評価</p> <p>第8回 乳児保育の実際（1） 保育の環境 0歳児の保育の実際</p> <p>第9回 乳児保育の実際（2） 1・2歳児の保育の実際</p> <p>第10回 乳児保育における連携・協働（1） 職員間の連携 多職種との連携</p> <p>第11回 乳児保育における連携・協働（2） 保護者との連携 連絡帳の書き方</p> <p>第12回 3歳未満児の利用する保育施設 子育て支援の場における乳児保育</p> <p>第13回 社会的養護を担う乳児院</p> <p>第14回 保育者としての自己覚知</p> <p>第15回 授業の振り返りとまとめ</p>
授業の進め方	<p>講義形式が中心となりますが、パワーポイントや動画、画像等を用い、視覚的にも分かりやすい授業を充実させます。また、適宜グループディスカッションやプレゼンテーションを取り入れ、各自の考えを発言し、グループ内における意見を統合し発表を行い、みんなで共有するアクティブラーニングの時間も設けます。</p>
能動的な学びの実施	<p>子どもを取り巻く環境や社会に常に目を向け、子どもが置かれている現状や問題点、乳児に関する情報を入手し、自分なりの意見をまとめ考察を行い、授業内で共有し、意見交換を行うなどし、学びや理解を深め、新たな気づきを得ることを希望します。</p>
授業時間外の学修	<p>授業前に教科書の該当箇所を読み、分からない言葉等は事前に調べておいてください。また各回の授業におけるテーマに関連した文献等を検索し、自らの考えをまとめて、学習内容の課題を明確にして望んでください。授業後には毎回授業の学び自分なりに整理し、知識を定着させてください。（合計60時間程度）</p>
教科書・参考書	<p>【教科書】『イラスト乳児保育』東京教学社、2025。 『保育所保育指針解説』厚生労働省（編）フレーベル館、2018。 【参考書】適宜紹介する</p>
成績評価方法と基準	<p>定期試験(60%) 小テスト・提出物(30%) 授業参加態度(10%)により総合的に成績を評価します。 保育者として相応しくない行動や言動があった場合、評価点から減点します。</p>
課題等に対するフィードバック	<p>毎授業におけるリフレクションペーパー内の質問に対し、次の授業で解説を行います。</p>
オフィスアワー	<p>CampusSquareを参照</p>
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・関連科目である乳児保育 は本科目履修および単位取得が履修条件です。 ・配布資料が多いため、A4サイズのファイルを用意しファイリングをし、また専用のノートを作成するなど、自分なりに各回の授業内容を整理してください。 ・第1回目の授業でオリエンテーションを行います。必ず出席してください。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>授業の進め方：Zoomで授業内容を講義した後に、各自が課題に取り組み考えをまとめ、オンライン上で意見を発表し、議論します。授業内容の確認小テストを行い、Webフォームに直接入力をし、その後解説を行います。</p> <p>zoom授業への参加度(10%)、確認小テスト(20%)、レポート提出(20%)、最終確認試験(50%)により総合的に成績を評価します。</p>

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	乳児保育
授業コード	AI274
英語名称	Infant Care and Education
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	三宅 美千代
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	乳児保育 では、乳児保育 で学んだ基礎的な知識を踏まえ、乳児保育の実際について、3歳未満児の発達や特性を基盤にし、関わりや援助、必要な配慮、計画の作成と評価などの乳児保育の実際について、より具体的に習得していきます。それを通じ、乳児保育における実践的な知識及び技術を身に付けていきます。特に3歳未満児の人間形成の上で大切な乳幼児期の育ちに関わる保育者として、子どもに寄り添い、ともに成長しようとする使命感をもつ意味を理解していきます。
科目に関連する実務経験と授業への活用	保育士・看護師の資格を持つ教員が、小児病棟や保育所等における実務経験と知識・技術を生かして指導する。
到達目標	<p>本科目は、こども学科が定めるディプロマ・ポリシー「2. 教育・保育に求められる専門知識と技能を体系的に理解するとともに、子どもに関する情報を分析し、子どもの育ちに即した教育及び保育方法を実践することができる。【知識・技能】」および「4. 生命への思いやりをもって子どもと接し、子どもに対する観察・理解力を身に付けるとともに、発達や育ちを基に指導計画を作成し、省察・改善することができる。【人間力・指導力】」、「5. 教育学や保育学の学びを通して、多様性のある子どもたちの活動に対応できる専門性やコミュニケーション力をつけ、未来を担う子どものための新たな教育・保育方法を提案することができる。【創造的な保育や教育】」の習得のため、以下について系統立てて理解し、自らの保育として実践する力を養う。</p> <p>3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの方針について理解する。 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。</p>
計画・内容	第1回 授業オリエンテーション 人的環境としての保育者 第2回 保育の計画 第3回 保育者の関わりと環境づくり 第4回 抱っこ・おんぶ 第5回 乳児の睡眠 第6回 沐浴・清拭 第7回 授乳 第8回 食事の援助 第9回 おむつ交換とトイレトレーニング 第10回 衣服の着脱 第11回 保育室の環境づくり 第12回 0, 1, 2歳児の教材研究とおもちゃ作り 第13回 おもちゃ作りと発表 第14回 乳児と絵本 第15回 授業の振り返りとまとめ

2025年度 東京西学部時間割

授業の進め方	授業前半ではパワーポイントや視聴覚教材を用いて学びの要点を示します。授業後半ではグループディスカッションやプレゼンテーション、ロールプレイングを多く取り入れ、各自の考えを発言し、グループ内における意見を統合し発表を行い、みんなで共有するアクティブラーニングの時間を設けます。
能動的な学びの実施	子どもを取り巻く環境や社会に常に目を向け、子どもが置かれている現状や問題点、乳児に関する情報を入手し、自分なりの意見をまとめ考察を行い、授業内で共有し、意見交換を行うなどし、学びや理解を深め、新たな気づきを得ることを希望します。
授業時間外の学修	授業前に教科書の該当箇所を読み、分からない言葉等は事前に調べておいてください。また各回の授業におけるテーマに関連した文献等を検索し、自らの考えをまとめて、学習内容の課題を明確にして望んでください。授業後には毎回授業の学び自分なりに整理し、知識を定着させてください。(合計60時間程度)
教科書・参考書	【教科書】『イラスト乳児保育』東京教学社,2025. 『保育所保育指針解説』厚生労働省(編)フレーベル館,2018. 【参考書】適宜紹介する
成績評価方法と基準	定期試験(60%) 小テスト・提出物(30%) 授業参加態度(10%)により総合的に成績を評価します。 保育者として相応しくない行動や言動があった場合、評価点から減点します。
課題等に対するフィードバック	毎授業におけるリフレクションペーパー内の質問に対し、次の授業で解説を行います。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は関連科目である乳児保育を履修および単位取得していることが履修条件です。 ・配布資料が多いため、A4サイズのファイルを用意しファイリングをし、また専用のノートを作成するなど、自分なりに各回の授業内容を整理してください。 ・実技演習時、長い髪はまとめ、爪を切り、清潔で動きやすい服装等で臨んでください。 ・第1回目の授業でオリエンテーションを行います。必ず出席してください。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>授業の進め方：Zoomで授業内容を講義した後に、各自が課題に取り組み考えをまとめ、オンライン上で意見を発表し、議論します。授業内容の確認小テストを行い、Webフォームに直接入力し、その後解説を行います。</p> <p>zoom授業への参加度(10%)、確認小テスト(20%)、レポート提出(20%)、最終確認試験(50%)により総合的に成績を評価します。</p>

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	教育相談論
授業コード	AI301
英語名称	Theory of Educational Counseling
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	稲垣 馨
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	幼児理解及び教育相談を学ぶための理論と方法は、幼児の発達と学びに関する知識を踏まえて、子どもを取り巻く環境との関係性に目を向け、子どもの育ちの背景となる時代の変化や社会からのニーズを取り込んだ柔軟なものが期待される。本講義では、幼児理解及び教育相談の理論と方法について、幼児理解を踏まえながら、教育相談の基礎となるカウンセリングの知識や方法を中心にロールプレイやグループワークなど、アクティブ・ラーニングによって体験的に学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	教育相談員、スクールカウンセラーとして学校現場において心理的支援に携わった経験を有している。教育の現場が抱える「いま・ここで」の課題や問題の解決に必要な知識および技術について、実際の事例を取り上げながら解説する。
到達目標	教育相談の基礎的な知識を土台に、実践への準備ができる。また教育の現場における教育相談の意義や方法について自ら考え、心理学的な視点から具体的な解決方法等を提案することができるよう学んでいく。学科が定めるディプロマポリシーに対応した到達目標は次の通りである。 教育・保育現場で求められる教育相談に関する専門知識と技能を体系的に理解するとともに、教育相談の場に持ち込まれる課題や問題に関する情報を分析し、心理学的な視点を持った解決方法を実践することができる。【知識・技能】 子どもに関わる際に、周囲の方々と協働しながら、様々な教育相談に関する課題や問題を見出し、その支援・解決に取り組むことができる【使命感・思考力】 悩みを抱える子どもや保護者に共感的に接し、相談者や環境に対する観察・理解力を身に付けるとともに、発達や育ちを基に支援計画を作成し、省察・改善することができる。【人間力・指導力】 本科目の学びを通して、多様性のある子どもたちの育ちに対応できる専門性やコミュニケーション力をつけ、未来を担う子どもやそれを支える保護者支援のための新たな方法を提案することができる。【創造的な保育や教育】
計画・内容	第1回 インTRODクシヨN 教育相談とは何か 教育相談の目的と内容 第2回 子ども理解の原則 発達の視点と生態学的理解 第3回 子ども理解の原則 問題行動・症状の意味を探索アセスメント 第4回 教育相談の技法 対象理解の方法 観察 面接 検査 第5回 相談の技法 カウンセリングの基礎理論 第6回 相談の技法 保護者との面接の進め方 技法の基礎 第7回 臨床的問題 関係性の問題 愛着 気になる子ども 第8回 臨床的問題 家庭の問題 育児不安 第9回 臨床的問題 ことばの発達とコミュニケーション障害 第10回 臨床的問題 発達障害 概説 第11回 臨床的問題 発達障害 知的障害、LD等 第12回 臨床的問題 発達障害 自閉症スペクトラム 第13回 臨床的問題 発達障害 ADHD、習癖等 第14回 臨床的問題 保護者との関係 第15回 授業総括

2025年度 東京西学部時間割

授業の進め方	アクティブラーニングも取り入れた講義形式であり、パワーポイントや映像資料など適宜活用する。
能動的な学びの実施	グループディスカッション、グループワーク、理解を深め実践に役立つロールプレイングなどのアクティブラーニングも取り入れる。
授業時間外の学修	授業前は予め教科書の該当箇所を読み、不明な点をまとめておく。授業後は教科書やプリントを見直し、自分の講義ノートを整理する（合計60時間程度）
教科書・参考書	一般社団法人 日本学校教育相談学会 監修（2025）. 学校教育相談—理論と実践のガイドブック. ほんの森出版
成績評価方法と基準	定期試験（80％）+レポート・提出物（20％）
課題等に対するフィードバック	学生の発表の都度、コメントを行う。レポート・提出物はコメントを付与して返却する。
オフィスアワー	CampusSquareを参照。
留意事項	こども学科卒業要件科目、小学校教諭・幼稚園教諭・保育士資格取得必須科目
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせで実施する。 授業中課題50％と期末レポート50％で評価する。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	社会福祉
授業コード	AI201
英語名称	Social Welfare
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	前嶋 深雪
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	○本科目は保育士の職務に係る必要な知識としての社会福祉の理解という内容を持つ。保育士は児童福祉法に位置づけられた福祉の国家資格であり、保育現場においては社会福祉についての理解が必須となる。本授業では、現代における社会福祉について、知識及び考え方、歴史、法律、福祉サービス現場などのさまざまな視点から考察し、理解することを目的とする。
科目に関連する実務経験と授業への活用	○精神保健福祉士（PSW）の国家資格を有し、10年にわたりソーシャルワーク（スクールソーシャルワーカー）の職務にたずさわってきた実務経験を活かし、保育士として必要な社会福祉の知識及び福祉サービス現場の実際について、学びのポイントを提示していく。
到達目標	○到達目標は次の2点となる。 1) 社会福祉の歴史の変遷を踏まえ、現代社会における社会福祉の意義について学び、保育士として必要な社会福祉について理解する。 2) 社会福祉の制度や実施体系等を学び、それらを実践するための「相談援助」の基礎を修得し、社会福祉の動向と課題について理解する。 以上を到達目標とすることにより、学科のディプロマポリシーに掲げる「豊かな教養と倫理観を身につけること」をはじめとして、【知識・技能】【使命感・思考力】【人間力・指導力】【創造的な保育や教育】に関する資質・能力を有する教育者となることを目指す。
計画・内容	第1回 イン트로ダクション 社会福祉とは？ 第2回 福祉の国家資格と歴史的経緯 4つの福祉資格 第3回 社会福祉の基礎概念 社会福祉の用語と理解 第4回 社会福祉の法律と制度 社会福祉の歴史 第5回 社会福祉の法律と制度 社会福祉と法律 第6回 地域の社会福祉 社会福祉協議会の役割 第7回 福祉の相談窓口と役割 相談援助とは？ 第8回 サービスと多職種連携 リハビリ職（PT・OT・ST）の理解 第9回 障害と福祉 支援制度と障害者手帳 第10回 障害と福祉 生活支援と法律 第11回 貧困と福祉 生活保護・困窮者支援

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	<p>第12回 若者と福祉 不登校・ひきこもり</p> <p>第13回 医療と福祉 地域連携・MSW（メディカルソーシャルワーカー）</p> <p>第14回 高齢と福祉 制度とサービス</p> <p>第15回 まとめ 理解度の確認：まとめ思考テスト（記述形式）</p>
授業の進め方	<p>○各回テーマが異なるため、各回の授業目標と授業内で提示する設問について説明する時間をとる。各回のテーマごとに異なるメンバーで話し合いの時間を持ち、チームで考える時間と全体で共有し、理解を深める時間を配分しながら授業を展開していく。また、各回の授業の最後に、ふりかえりのコメントシートを提出する。</p>
能動的な学びの実施	<p>○学生相互で考えを伝え合い、一つの課題について合意形成・課題解決をする時間を持つ（チームで話し合うアクティブラーニングの形式を導入）。また、授業ごとにコメントシートに「新しい発見」を記入し、ポートフォリオとしてふりかえり、学修の深まりを実感できるようにする。</p>
授業時間外の学修	<p>○各回テーマが異なるため、授業終了後の復習として、授業内容をまとめておくこと</p> <p>○授業で配布する資料は、授業時にすべて読むこと・理解することが難しいため、授業後にしっかりと読み、理解を深めること</p> <p>○各回テーマに係る内容について、新聞やニュースなどの記事に注意を向け、情報を集めておくこと</p> <p>15回で約60時間相当の予習及び復習の時間を持つこと</p>
教科書・参考書	<p>教科書：なし（授業時に資料を配布）</p> <p>参考書：吉田真理著『生活事例からはじめる 新版 社会福祉』青鞥社（2008）</p>
成績評価方法と基準	<p>○授業内のチームでの話し合いへの参加とコメントシート30%、調べ課題及び発表30%、まとめ思考テスト（理解度の確認）40%により総合的に評価する</p>
課題等に対するフィードバック	<p>○コメントシートでのふりかえりを授業の最初に紹介し、疑問や質問から考えを深めていく時間を持つ。</p>
オフィスアワー	<p>○CampusSquareを参照</p>
留意事項	<p>○本科目は、保育士資格取得のための必修科目、保育実習（施設）を履修するための基準科目としての位置づけとなる。</p> <p>○考えを応答する時間や思考のアウトプットの多い授業となるため、体調やぐあいが悪いと十分な学びができなくなるので、健康に留意して授業に臨むこと。</p>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>授業の進め方：Zoomによるオンライン授業にて実施する。</p> <p>成績評価方法と基準：Zoom受講及びコメントシート提出30%と課題提出30%、まとめ確認テスト40%で評価する。</p>

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	保育の指導法（言葉）
授業コード	AI332
英語名称	Teaching Methods for Child Care and Education (Language)
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	前嶋 深雪
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	○幼稚園・保育所・子ども園での指導やねらいの領域の一つに「言葉の獲得に関する領域」としての「言葉」がある。保育者・教育者として、子どもの言語獲得の理解と知識を深め、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における「言葉の獲得に関する領域（言葉）」を解釈し、理解した上で、指導計画を作成するための知識を得る内容を持つ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	○小学校での「学び合い」の校内研究の講師・中学校及び高等学校の国語科教諭としての経験と、若者を対象としたコミュニケーション講座講師の経験で獲得した国語（日本語）の能力を高める手法を活用する。言語知識としての習得及び言語運用をしながら体験を含め、「楽しみながら学ぶ」授業展開をしていく。知識のインプットと表現のアウトプットをバランスよく授業時間内に配置し、主体的・対話的で深い学びの体感を持てるようにする。
到達目標	○子どもの言語能力をささえる保育・教育者に必要な知識として「日本語」及び「言語獲得」に関する知識を深めること、子どもの言語の獲得のプロセスについて理解すること、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における「言葉の獲得に関する領域（言葉）」の解釈及び理解をすること、保育・教育の場での指導計画を作成するための知識を得ることを授業の目標とする。 以上を到達目標とすることにより、学科のディプロマポリシーに掲げる「豊かな教養と倫理観を身につけること」をはじめとして、【知識・技能】【使命感・思考力】【人間力・指導力】【創造的な保育や教育】に関する資質・能力を有する教育者となることを目指す。
計画・内容	第1回 インTRODクシヨン 環境と言葉の相関 第2回 音声言語の獲得 言語音の聞き分けと理解 第3回 指導案づくり 環境と音声言語獲得の視点を踏まえた指導案 第4回 日本語の文字への興味 書記言語を獲得することの意義 第5回 指導案づくり 文字への興味の視点を踏まえた指導案 第6回 言葉と気持ちの相関 語彙の獲得とプロセス 第7回 指導案づくり 語彙獲得の視点を踏まえた指導案 第8回 ことばの発達 育児放棄事例と言語の獲得 第9回 実践課題 児童文化財・教材研究 第10回 実践課題 教材作成・課題まとめ

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	<p>第11回 実践課題 教材活用練習</p> <p>第12回 課題発表 教材研究の発表</p> <p>第13回 課題実践 模擬実習（部分実習）</p> <p>第14回 課題実践 教材発表（自己紹介教材）</p> <p>第15回 まとめ 理解度の確認：まとめ思考テスト（記述形式）</p>
授業の進め方	<p>○各回テーマが異なるため、各回の授業目標と授業内で提示する設問について説明する時間をとる。各回のテーマごとに異なるメンバーで話し合いの時間を持ち、チームで考える時間と全体で共有し、理解を深める時間を配分しながら授業を展開していく。また、各回の授業の最後に、ふりかえりのコメントシートを提出する。</p>
能動的な学びの実施	<p>○学生相互に考えを交流し合い、一つの課題について合意形成・課題解決をする時間を持つ（チームで話し合うアクティブラーニングの形式を導入）。また、授業ごとにコメントシートに「新しい発見」を記入し、ポートフォリオとしてふりかえり、学修の深まりを実感できるようにする。</p>
授業時間外の学修	<p>○各回テーマが異なるため、授業終了後の復習として、授業内容をまとめておくこと</p> <p>○教科書である「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」を読み、記述内容の把握と理解をしておくこと</p> <p>○課題作成の際にはメモなどを残し、きちんとポートフォリオとしてまとめ、後から振り返りができるようにしておくこと</p> <p>合計15回で約60時間相当の予習及び復習の時間を持つこと</p>
教科書・参考書	<p>教科書：齋藤政子（編）『保育内容「言葉」と指導法 理解する・考える・実践する』中央法規出版(2023)</p> <p>参考書：幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説</p>
成績評価方法と基準	<p>○授業参加及びコメントシート課題提出30%、課題実践及び発表35%、まとめ思考テスト35%により、総合的に評価する。</p>
課題等に対するフィードバック	<p>○コメントシートでのふりかえりを授業の最初に紹介し、疑問や質問から考えを深めていく時間を持つ。</p>
オフィスアワー	<p>○CampusSquareを参照</p>
留意事項	<p>○考えを応答する時間や思考のアウトプットの多い授業となるため、体調やぐあいが悪いと十分な学びができなくなるので、健康に留意して授業に臨むこと。</p>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>授業の進め方：Zoomによるオンライン授業にて実施する。</p> <p>成績評価方法と基準：Zoom受講及びコメントシート提出30%と課題実践と発表35%、まとめ思考テスト35%で総合的に評価する</p>

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	児童文学
授業コード	AI103
英語名称	Literature for Children
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	前嶋 深雪
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	○児童文学はそのジャンルに絵本を含み、子どもの言語の発達に絵本の読み聞かせは欠かせないツールとなっている。絵本は音声言語を中心に子どもに言葉を届ける言語形式であり、学齢以前から学齢期にかけて、絵本及び児童文学書に触れ合うことで子どもの読む力が育まれると同時に、書記言語を含めた言語能力が獲得されていく。保育・教育者として、子どもの発達段階に応じた児童文学作品を選ぶ視点や子どもに児童文学作品に興味を持たせる作品紹介ができる表現の力を獲得することは必要であり、これらの学びを中心に展開する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	○小学校での校内研究の講師・学校及び高等学校の国語科教諭としての経験と、若者を対象としたコミュニケーション講座講師の経験で獲得した国語（日本語）の能力を高める手法を活用する。言語知識及び言語運用の観点から、絵本をはじめとする児童文学作品について、言語分析やテキスト分析を通して、読み聞かせなどの表現も含めた学びのポイントを提示していく。
到達目標	○保育・教育者として、子どもが触れる児童文学作品について理解し、子どもの発達段階に応じた作品を選ぶ力を得ることを目的として、物語の構造分析の視点を得ること、子どもが興味を持つポイント及び子どもにとっての言語の学びとなるポイントを見つける視点を持つこと、読み聞かせや文学作品の紹介の仕方などの表現力を高めることを目標とする。 以上を到達目標とすることにより、学科のディプロマポリシーに掲げる「豊かな教養と倫理観を身につけること」をはじめとして、【知識・技能】【使命感・思考力】【人間力・指導力】【創造的な保育や教育】に関する資質・能力を有する教育者となることを目指す。
計画・内容	第1回 イン트로ダクション 児童文学とは？ 第2回 絵本の構造分析 言語的な視点（言葉の特徴） 第3回 絵本の構造分析 ストーリー分析（子どもと大人の視点の違い） 第4回 絵本の構造分析 音声言語としての絵本（読み聞かせのために）/発達段階に応じた絵本を選ぶ 第5回 課題実践 絵本の構造分析 第6回 課題実践 絵本の価値と紹介文 第7回 課題発表 絵本について相互に学び合う 第8回 子どもの本の歴史 世界の児童文学の歴史と作品 第9回 子どもの本の歴史 日本の児童文学の歴史と作品 第10回 児童文学作品テキスト分析

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	<p>作品の構造分析</p> <p>第11回 児童文学作品テキスト分析 作者と時代</p> <p>第12回 児童文学作品テキスト分析 作品のテーマと価値</p> <p>第13回 チーム課題実践 作品の解釈と表現の考察</p> <p>第14回 チーム課題実践 時代性と価値の考察</p> <p>第15回 課題発表(チーム) 児童文学作品について相互に学び合う/最終レポート課題(記述)の確認</p>
授業の進め方	<p>○チームごとに、各時間のテーマに沿った児童文学に関する課題を考えて仕上げ、発表し合う時間を多く持つ。いろいろな意見や解釈を伝え合いながら、共有する機会を設け、協働の体験と発表の体験を重ねながら、児童文学についての学びを深める授業を展開していく。また、各回の授業の最後に、ふりかえりのコメントシートを提出する。</p>
能動的な学びの実施	<p>○学生相互で考えを伝え合い、一つの課題について合意形成・課題解決をする時間を持つ(チームで話し合うアクティブラーニングの形式を導入)。また、授業ごとにコメントシートに「新しい発見」を記入し、第15回授業時にポートフォリオとしてふりかえり、学修の深まりを実感できるようにする。</p>
授業時間外の学修	<p>○授業内では文学作品や資料を読みこなす時間が不足するため、授業で扱った作品や資料については、授業終了後に何度も読み、理解しておくこと(各回約2時間相当)。</p> <p>○絵本や児童文学作品を図書館で借りたり、購入したりなどして、授業を開講する春学期中に10冊以上は読むこと(各回2時間相当)。</p> <p>15回で約60時間相当の予習及び復習の時間を持つこと</p>
教科書・参考書	<p>○教科書：特になし(授業時に資料を配付する)</p> <p>○参考書：川端有子『児童文学の教科書』玉川大学出版部(2013年) ひこ田中『大人のための児童文学講座』徳間書店(2005年) リアン・H・スミス(石井桃子ほか訳)『児童文学論』岩波書店(2015年)</p>
成績評価方法と基準	<p>○授業内のチームでの話し合いへの参加とコメントシート30%、課題発表40%、最終レポート30%により総合的に評価する。</p>
課題等に対するフィードバック	<p>○コメントシートでのふりかえりを授業の最初に紹介し、疑問や質問から考えを深めていく時間を持つ。</p>
オフィスアワー	<p>○CampusSquareを参照</p>
留意事項	<p>○考えを応答する時間や思考のアウトプットの多い授業となるため、体調やぐあいが悪いと十分な学びができなくなるので、健康に留意して授業に臨むこと。</p>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>授業の進め方：Zoomによるオンライン授業にて実施する。</p> <p>成績評価方法と基準：Zoom受講及びコメントシート提出30%と課題提出40%、最終レポート(記述)30%で評価する。</p>

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	教育心理学
授業コード	AI164
英語名称	Educational Psychology
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	稲垣 馨
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	学校教育における教育心理学の周辺領域を含め総合的に学ぶ。教育現場で生じる問題に対して教育心理学的視点から対応できるよう、子どもの心身の発達、学習や発達障害に関わる心理的なメカニズムについて学んでいく。
科目に関連する実務経験と授業への活用	教育相談員、スクールカウンセラーとして学校現場に関わった経験を有している。実践に向けて、チーム学校における協働的な支援のありかた、必要な知識とアプローチ方法について、事例を取り上げて解説する。
到達目標	<p>教育心理学の基礎的な知識を習得し、教育現場で生じる問題と背景について説明できる。また教育現場で生じる問題解決にむけて、児童生徒の発達促進的支援に必要な方法を現場で実践できるよう学んでいく。学科が定めるディプロマポリシーに対応した到達目標は次の通りである。</p> <p>教育・保育の現場で求められる教育心理学に関する専門知識と技能を体系的に理解するとともに、教育心理学に関する情報を分析し、子どもの育ちに即した教育及び保育方法を実践することができる。【知識・技能】</p> <p>子どもと関わる際に、周囲の方々と協働しながら、様々な課題や問題を見出し、教育心理学を活かした視点で支援・解決に取り組むことができる【使命感・思考力】</p> <p>生命への思いやりをもって子どもと接し、子どもに対する観察・理解力を身に付けるとともに、発達や育ちを基に教育心理学の知識を活用した指導計画を作成し、省察・改善することができる。【人間力・指導力】</p> <p>本科目による学びを通して、多様性のある子どもたちの活動に対応できる専門性やコミュニケーション力をつけ、未来を担う子どものための新たな教育・保育方法を提案することができる。【創造的な保育や教育】</p>
計画・内容	<p>第 1回 イン트로ダクション 教育心理学の目的と対象</p> <p>第 2回 子どもの発達と教育</p> <p>第 3回 身体・運動機能の発達</p> <p>第 4回 認知の発達</p> <p>第 5回 パーソナリティの発達</p> <p>第 6回 人間関係の発達</p> <p>第 7回 学習理論</p> <p>第 8回 動機づけ</p> <p>第 9回 不適応を示す子どもへの理解と対応 不登校</p> <p>第10回 不適応を示す子どものへの理解と対応 いじめ、非行</p> <p>第11回 特別支援教育と発達障害</p> <p>第12回 学級集団の機能と発達</p> <p>第13回 主体的学習の指導</p> <p>第14回 教育評価</p> <p>第15回 授業総括</p>
授業の進め方	アクティブラーニングも取り入れた講義形式であり、パワーポイントや映像資料など適宜活用する。

2025年度 東京西学部時間割

能動的な学びの実施	グループディスカッション，グループワーク，理解を深め実践に役立つロールプレイングなどのアクティブラーニングも取り入れる。
授業時間外の学修	授業前は予め教科書の該当箇所を読み，不明な点をまとめておく。授業後は教科書やプリントを見直し，自分の講義ノートを整理する（合計60時間程度）
教科書・参考書	古屋喜美代他編（2023）. 児童生徒理解のための教育心理学. ナカニシヤ出版
成績評価方法と基準	定期試験（80％）+レポート・提出物（20％）
課題等に対するフィードバック	学生の発表の都度，コメントを行う。レポート・提出物はコメントを付与して返却する。
オフィスアワー	CampusSquareを参照。
留意事項	こども学科卒業要件科目，小学校教諭・幼稚園教諭・保育士資格取得必須科目
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせる。 授業中課題50％と期末レポート50％で評価する。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	発達心理学
授業コード	AI351
英語名称	Developmental Psychology
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	稲垣 馨
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、保育者として必要な発達を捉える視点について学ぶ。保育者が発達の事象を理解するためには、発達段階論の観点のみならず、発達過程論の視点や生涯発達論的な視点などが必要となるため、それらについて概観する。また、個性的な発達様相を示す幼児・児童の発達について学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	保育・教育・医療の現場で、心理士として子どもから成人に関わった経験から、人間の生涯発達について臨床心理学的な視点による話題を提供する。とりわけ発達障害を抱える場合、発達の連続上にどのような困難が生じるのか等、事例を交えて解説する。
到達目標	<p>保育者に求められる発達心理学に関する主要な理論、知識、考え方、キーワードを十分に習得し、実習等に生かすことができる。さらに自らの発達と重ねて発達過程の具体的なイメージをつかみ、人間の生涯発達について理解する。</p> <p>学科が定めるディプロマポリシーに対応した到達目標は次の通りである。</p> <p>教育・保育現場で求められる発達心理学に関する専門知識と技能を体系的に理解するとともに、子どもの発達に関する情報を分析し、子どもの育ちに即した教育及び保育方法を実践することができる。【知識・技能】</p> <p>子どもに関わる際に、周囲の方々と協働しながら、様々な子どもの発達に関する課題や問題を見出し、その支援・解決に取り組むことができる【使命感・思考力】</p> <p>生命への思いやりをもって子どもと接し、子どもに対する観察・理解力を身に付けるとともに、発達や育ちを基に指導計画を作成し、省察・改善することができる。【人間力・指導力】</p> <p>本科目の学びを通して、多様性のある子どもたちの活動に対応できる専門性やコミュニケーション力をつけ、未来を担う子どものための新たな教育・保育方法を提案することができる。【創造的な保育や教育】</p>
計画・内容	<p>第 1回 発達の捉え方と生涯発達心理学の理論的枠組み</p> <p>第 2回 発達における遺伝と環境 発達における遺伝と環境の関係</p> <p>第 3回 発達における遺伝と環境 双子の事例から考える</p> <p>第 4回 発達初期の能力 胎児期・周産期の発達</p> <p>第 5回 発達初期の能力 感覚と運動の発達</p> <p>第 6回 自己と感情の発達</p> <p>第 7回 他者との関係の発達 愛着とは</p> <p>第 8回 愛着の発達</p> <p>第 9回 ピアジェ理論を含む認知の発達</p> <p>第10回 社会性・道徳性の発達</p> <p>第11回 言語の発達</p> <p>第12回 遊びと仲間関係の発達</p> <p>第13回 学童期以降の発達</p> <p>第14回 発達障害について</p> <p>第15回 授業総括</p>
授業の進め方	アクティブラーニングも取り入れた講義形式であり、パワーポイントや映像資料など適宜活用する。

2025年度 東京西学部時間割

能動的な学びの実施	グループディスカッション，グループワークなどのアクティブラーニングも取り入れる。
授業時間外の学修	授業前は予め教科書の該当箇所を読み，不明な点をまとめておく。授業後は教科書やプリントを見直し，自分の講義ノートを整理する（合計60時間程度）
教科書・参考書	林洋一（2022）.最新図解よくわかる発達心理学. ナツメ社
成績評価方法と基準	定期試験（60%）+レポート・提出物（40%）
課題等に対するフィードバック	学生の発表の都度，コメントを行う。レポート・提出物はコメントを付与して返却する。
オフィスアワー	CampusSquareを参照。
留意事項	
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせで実施する。 授業中課題50%と期末レポート50%で評価する。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	保育原理
授業コード	AI109
英語名称	Principle of Child Care and Education
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	原 純子
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	そもそも「保育」とは何か？保育学の基本的理論を学ぶことで、保育を实践する場である「保育所」「幼稚園」について、実践者としての「保育士」「幼稚園教諭」について、またその専門性に基づく園内外の子どもと家族への役割について学ぶ。さらに、昨今の日本の保育現場における現状を明らかにし、課題について考察する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	・ 国内外の幼稚園での幼児教育、保育所での乳幼児保育、子ども病院での医療保育、児童養護施設での養護、児童家庭支援センターでの里親家庭の措置児支援などの実務経験を活かし、多様な保育現場における様々な子どもへの保育と家族への支援の実際とそれを支える理論について講義する。
到達目標	<p>1．保育の基本的理論と実践について理解する。</p> <p>2．保育の場と保育者の専門性について理解し、子どもへの保育と家族への支援について考察する。</p> <p>3．昨今の日本における保育の現状と課題を理解し、それに対する考察を述べる。</p> <p>学科が定めるディプロマ・ポリシーに関する本科目の位置付けは以下の通りである。</p> <p>【教養と倫理観】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現代の子どもと家族を取り巻く社会環境と保育の社会的意義について知見を拡充する。 ・ 子どもと家族の生活やプライバシーに密接に関わる専門職としての倫理観について理解する。 <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育・幼児教育に求められる基本的知識について理解する。 ・ 子どもの集団及び子ども一人ひとりとその家族の個性に対する理解を深め、それらに対応する技能の必要性について理解する。
計画・内容	<p>第1回 保育とは 保育のイメージ・定義</p> <p>第2回 保育とは 保育の理念と社会的意義</p> <p>第3回 子どもとは 子どものイメージ・子ども観</p> <p>第4回 子どもとは 子ども理解・子どもの遊び</p> <p>第5回 保育の成り立ち 西欧の保育の思想と歴史</p> <p>第6回 保育の成り立ち 日本の保育の思想と歴史</p> <p>第7回 保育の場 保育所・幼稚園・認定こども園</p> <p>第8回 保育の場 家庭・多様な保育の場</p>

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	<p>第9回 保育の目標・内容・方法</p> <p>第10回 保育者の専門性</p> <p>第11回 保育所における子育て支援</p> <p>第12回 保育をめぐる近年の状況と課題</p> <p>第13回 【演習】 幼稚園・保育所の現状と課題を探る事例研究（情報収集・グループ討議）</p> <p>第14回 【演習】 幼稚園・保育所の現状と課題を探る事例研究（資料作成）</p> <p>第15回 【演習】 幼稚園・保育所の現状と課題を探る事例研究（発表会）</p>
授業の進め方	<p>【教員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本科目の理論について説明し、ポイントを提示する。 ・ 新聞記事や映像資料等を活用して関連事例を紹介し、それに対する解釈を述べる。 <p>【学生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートに、授業内容のポイントをまとめる。 ・ 保育に関するテーマに応じた問いについて、グループで討議して発表する。 ・ 本講のまとめとして、幼稚園保育所の現状や課題に関する事例研究会を行う。
能動的な学びの実施	<p>【グループ討議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育に関するテーマに応じた問いについて、グループで討議して発表する。 <p>【事例研究会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨今の幼稚園、保育所保育の現状と課題を知るために、参考文献、新聞記事、映像資料から実際の事例について情報収集し、グループ討議を踏まえた資料作成を行い発表する。
授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義内で説明する。
教科書・参考書	<p>教科書：咲間まり子・監修『保育原理 [第2班] はじめて保育の扉をひらくあなたへ』, みらい</p> <p>その他、講義内で関連書籍を紹介する。</p>
成績評価方法と基準	<p>筆記試験（30%）+ 課題レポート（30%）+ 授業レスポンス（25%）+ 出席（15%）</p>
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受講生は、毎講終了後に、教員指定の「レス・フォーム（GoogleForms）」に対して、感想・考察、疑問・質問、意見・提案、自由記述の各項目に分けて入力、送信する。 ・ 教員は、全受講生より収集されたレスを匿名化して作表し、受講生にメール添付にて送信することで、受講生は他者意見を知り、新たな知見や気づきを得る。 ・ レスに質問や誤った理解が記述されていれば、個人を特定しない形でメールあるいは次回講義で回答する。
オフィスアワー	<p>CampusSquareを参照</p>
留意事項	
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>【非対面授業になった場合】</p> <p>授業の進め方</p> <p>zoomを用い、時間割通りの時間帯に、オンライン授業を実施する。</p> <p>zoomのURLや授業資料等はCampusSquareに掲示し配信する。</p> <p>成績評価方法と基準</p> <p>zoom参加と課題提出状況で出欠を登録し、2/3以上の出席を条件とし期末試験の成績で評価する。</p> <p>筆記試験（30%）+ 課題レポート（30%）+ 授業レスポンス（25%）+ 出席（15%）</p>

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	幼稚園教育実習事前事後指導
授業コード	AI321
英語名称	Guidance for Teaching Practice (Kindergarden)
学期	2025年度通年（前・後）
単位	1.0
担当教員	藤井 志帆, 一本嶋 諭, 原 純子
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	<p>* 本科目は、既習の教科の内容を踏まえ、実際の幼稚園教育実習で幼稚園と子どもへの理解を深めるために、園の概要、園生活の流れ、人的・物的環境、幼稚園教諭の勤務形態や専門性など幼児教育現場の基本的事項および実際の事例を用いた講義、演習を行う。</p> <p>* 実習の意義や目的、自己目的・目標の明確化、実習計画書や実習記録の作成、指導案の立案に関する指導を行う。</p> <p>* 「幼稚園教育実習」「幼稚園教育実習」それぞれ終了した後に、まとめとしての「事後指導」を行う。</p>
科目に関連する実務経験と授業への活用	国内外の幼稚園におけるクラス担任教諭、障害児の加配職員としての実務経験を活かし、多様な子どもたちへの理解と対応、その成長発達への個別最適化された教育・支援について、実際の事例を用いて講義する。
到達目標	<p>* 到達目標は次の2つとなる</p> <p>(1) 幼稚園実習と幼稚園実習に向け事前準備を整え、実習事後には反省と学習の定着をはかる</p> <p>(2) 幼稚園教諭としての力を身につける</p> <p>尚、本科目は、ディプロマポリシーに掲げる【知識・技能】【使命感・思考力】【人間力・指導力】【創造的な保育や教育】に関する資質・能力を身につけることを目指す。</p>
計画・内容	<p>事前指導 3年前期 (担当：藤井・原)</p> <p>1) オリエンテーション 教育実習の意義と目的、実習に関する重要事項の説明と確認</p> <p>2) 幼稚園の一日の流れ</p> <p>3) 実習日誌の書き方</p> <p>4) 実習日誌の書き方</p> <p>5) 誓約書、個人調書、実習計画書の作成（下書き）</p> <p>6) 保育者・子どもの観察の視点：実習日誌（エピソード記録）の書き方</p> <p>7) 保育者・子どもの観察の視点：実習日誌（エピソード記録）の書き方</p>

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	<p>8) 誓約書、個人調書、実習計画書の作成（清書）</p> <p>9) 指導案の書き方：絵本選びと部分実習指導案</p> <p>10) 模擬保育：指導案に基づく模擬保育と教育評価、振り返りと反省</p> <p>11) 模擬保育：指導案に基づく模擬保育と教育評価、振り返りと反省</p> <p>12) 模擬保育：指導案に基づく模擬保育と教育評価、振り返りと反省</p> <p>13) 実習ガイダンス：オリエンテーションの準備、注意事項</p> <p>14) 実習ガイダンス：御礼状の書き方 実習心得、勤務態度等</p> <p>15) 実習ガイダンス：実習巡回担当教員との面談・オリエンテーション報告と発表</p> <p>事後指導 3年後期 (藤井・原 担当。実習巡回を担当した教員)</p> <p>1) 実習終了の振り返りシート作成、巡回指導教員との事後面談依頼</p> <p>2) 事後面談</p> <p>3) 実習の総括と展望について発表</p> <p>事前指導：3年後期 (担当：藤井・原・一本嶋)</p> <p>1) 教育実習 の意義と目的、教育実習 での学び・疑問の再認識、教育実習 に向けての課題</p> <p>2) 実習日誌から：保育者の支援方法や配慮について</p> <p>3) 実習日誌から：子どもを見る観点について</p> <p>4) 誓約書、個人調書、実習計画書の作成（下書き）</p> <p>5) 指導案の書き方（グループA） / ピアノ指導（グループB）</p> <p>6) 指導案の書き方（グループB） / ピアノ指導（グループA）</p> <p>7) 模擬保育：指導案に基づく模擬保育と教育評価、振り返りと反省</p> <p>8) 模擬保育：指導案に基づく模擬保育と教育評価、振り返りと反省</p> <p>9) 模擬保育：指導案に基づく模擬保育と教育評価、振り返りと反省</p> <p>10) 模擬保育：指導案に基づく模擬保育と教育評価、振り返りと反省</p> <p>11) 模擬保育：指導案に基づく模擬保育と教育評価、振り返りと反省</p> <p>12) 模擬保育：指導案に基づく模擬保育と教育評価、振り返りと反省</p> <p>13) 実習ガイダンス（グループA） / ピアノテスト（グループB）</p> <p>14) 実習ガイダンス（グループB） / ピアノテスト（グループA）</p>
-------	--

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	<p>15) 実習ガイダンス : 実習巡回担当教員との面談・オリエンテーション報告と発表</p> <p>事後指導：4年前期（2026年度） (藤井・原 担当。実習巡回を担当した教員)</p> <p>1) 実習終了の振り返りシート作成、巡回指導教員との事後面談依頼</p> <p>2) 事後面談</p> <p>3) 実習の総括と展望について発表</p>
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> * 代表教員が講義を行い、他の教員が補佐を行う形式、グループ学習あるいは個別面接指導などによって授業を行う * 講義、演習、課題を織り交ぜ、実習に向け、実践的な学習をおこなう * 幼稚園生活および幼児について、再確認をする * DVD等の視聴覚教材、現役の幼稚園関係者の話を取り入れ、現場に則した内容の授業を行う * 子ども理解、援助方法、記録の書き方、指導案作成法を理解するだけでなく、実際に書類を作成して、実践的に学ぶ * ロールプレイによる模擬保育をおこない、実習に必要な保育技術を身につける
能動的な学びの実施	<ul style="list-style-type: none"> * ディスカッションによる課題検討や、グループワーク等を取り入れ指導計画の立案や保育指導法の理解を深める * 指導計画案の作成し、ロールプレイングを用いた模擬保育を取り入れ保育指導法の理解(実践力や展開力)を深める
授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> * 授業の内容における振り返りを毎回行い、授業の理解を深める * 授業時に配布する資料をしっかりと読み、理解する (各回1～2時間 合計30時間)
教科書・参考書	<ul style="list-style-type: none"> * 実習の手引き * 資料を適宜、授業内で配布する
成績評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> * 定期試験は実施しない * 平常点(授業参加の状況: 態度、授業への積極性等) 20%、提出物40%、模擬保育などの発表(ピアノのテスト含む) 40%により総合的に評価する
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> * 学生からの質問や疑問等についてその都度個別に対応する * ディスカッションやグループワーク、模擬保育など学生の発表毎にコメントを行う * 課題等には添削、コメントをつけて返却する
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> * CampusSquare参照のこと。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> * 本科目は、幼稚園教諭第1種免許状取得のための必修科目である。 * 「幼稚園実習」 「幼稚園実習」の履修と連動するものである。 <p>【事前指導に関する留意点】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 無断欠席は原則1回で実習中止となる。 2) 病気による欠席の場合は後日に医療機関の診断書等の提出が必要となる。 3) 連絡あった上での欠席は3回までが許容回数だが、状況により実習中止となることがある。 4) 遅刻は授業始まるまでに連絡を入れること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>オンライン(Zoom)、オンデマンド(YouTubeによる動画視聴)、課題学修による授業を行う。園に提出が必要な書類作成他の資料や書面はCampusSquareの掲示で配布、あるいはレターパックで各自に郵送する。作成した書類は同レポート欄より提出、あるいは郵送で提出する。</p>

2025年度 東京西学部時間割

非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	定期試験は実施しない。対面授業時と同等とする。
------------------------------------	-------------------------

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	幼児理解の理論と方法
授業コード	AI159
英語名称	Theory and Method of Infant comprehension
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	原 純子
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	日々の保育においては、保育者にとって思いがけない発言や行動をする子どもへの対応に戸惑ったり悩んだりすることがある。子どもの中で様々な揺れ動く思いや葛藤への「理解」を深めることが、保育者としての効果的な対応や援助に繋がる。本講では、子ども理解のための理論や演習を踏まえ、保育現場における様々な場面での10事例から、子どもへの理解と対応について考察を深める。
科目に関連する実務経験と授業への活用	・ 幼稚園、保育所、子ども病院、児童家庭センターにおける乳幼児支援の実務経験を活かし、保育現場における様々な子どもとそのニーズへの理解および対応について考察するための講義と演習を行う。
到達目標	<p>1. 子どもを理解することの意義とその必要性について理解を深める。</p> <p>2. 子ども自ら選択する遊びの重要性に対する理解と対応について理解を深める。</p> <p>3. 集団保育や設定活動における子どもの自発性・主体性の重要性について理解を深める。</p> <p>4. 保育者による共感的理解の重要性について理解を深める。</p> <p>5. 実際の事例から子どもへの理解と対応について自らの考察を深める。</p> <p>学科が定めるディプロマ・ポリシーに関する本科目の位置付けは以下の通りである。</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育・幼児教育の場における多様な子どもの存在と、子ども一人ひとりとその家族が有する個別的ニーズに対する理解のための専門的知識、効果的対応のための専門的技術の必要性について理解を深める。 <p>【使命感・思考力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもと家族の多様性や課題への理解を深め、それに最前線で関わる専門職としての社会的使命を確認する。 ・ 個々のケース対応についてより理解や考察を深め、効果的な支援に繋げるための同職種・異職種間連携・協働の重要性、必要性について理解を深める。 <p>【創造的な保育や教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの多様性に対して、保育者としての特性を活かした効果的な支援、介入を実現するためのコミュニケーションや保育実践の方法を自ら具体的に提案し、それについて考察を深める。
計画・内容	<p>第1回 子ども理解の意義と必要性</p> <p>第2回 自由遊びと子ども理解 事例1 「剣を作り続ける子ども・作ってもらいたがる子ども」</p> <p>第3回 自由遊びと子ども理解 事例2- 「泥団子をピカピカにしたい子ども」</p> <p>第4回 自由遊びと子ども理解 事例2- 「泥団子をピカピカにしたい子ども」</p> <p>第5回 自由遊びのための教材研究と環境整備の重要性</p> <p>第6回 設定活動と子ども理解 事例3 「好きな遊びを見つけれない子ども」</p> <p>第7回 設定活動と子ども理解 事例4 「保育者が言った通りに描かなかった子ども」</p>

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	<p>第8回 設定活動と子ども理解 事例5 「保育者と一緒に考え決める子どもたち」</p> <p>第9回 設定活動における子どもの自発性・主体性の重要性</p> <p>第10回 信頼関係の構築による子ども理解 事例6 「母親を求めて泣く子ども」</p> <p>第11回 省察・連携による子ども理解 事例7 「おすもうに負けて泣く子ども」</p> <p>第12回 子どもへの共感的理解 事例8 「新しい靴で水たまりに入る子ども」</p> <p>第13回 子どもへの共感的理解 事例9 「ちぎり絵にはさみを使いたがる子ども」</p> <p>第14回 子どもへの共感的理解 事例10 「保育室に入りたがらない子ども」</p> <p>第15回 保育者の信頼関係・省察・連携・共感の重要性</p>
授業の進め方	<p>【教員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本科目の理論について説明し、ポイントを提示する。 ・ 事例理解を深めるための演習（教材研究・環境整備）を行う。 <p>【学生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループで演習（教材研究・環境整備）に準備段階から取り組む。 ・ 事例への理解と対応についてグループ討議し、発表する。
能動的な学びの実施	<p>【子どもの遊びを支える教材研究・環境整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自発的な遊びや設定活動への取り組みの中で様々な揺れ動く子どもの思いや葛藤への理解を深め、保育者による効果的な配慮や援助を行うための教材研究と環境整備を体験する。（新聞紙の剣づくり・泥団子づくり） <p>【子ども理解のためのグループ討議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園・保育所での様々な場面における子どもの10事例から、子ども理解を深めるためのグループ討議を行い発表する。
授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義内で説明する。
教科書・参考書	<p>教科書：請川滋大・著 『子ども理解 個と集団の育ちを支える理論と方法』 萌文書林</p> <p>その他、講義内で関連書籍を紹介する。</p>
成績評価方法と基準	<p>筆記試験（30%）+ 課題レポート（30%）+ 授業レスポンス（25%）+ 出席（15%）</p>
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受講生は、毎講終了後に、教員指定の「レス・フォーム（GoogleForms）」に対して、感想・考察、疑問・質問、意見・提案、自由記述の各項目に分けて入力、送信する。 ・ 教員は、全受講生より収集されたレスを匿名化して作表し、受講生にメール添付にて送信することで、受講生は他者意見を知り、新たな知見や気づきを得る。 ・ レスに質問や誤った理解が記述されていれば、個人を特定しない形でメールあるいは次回講義で回答する。
オフィスアワー	<p>CampusSquareを参照</p>
留意事項	
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>【非対面授業になった場合】</p> <p>授業の進め方 zoomを用い、時間割通りの時間帯に、オンライン授業を実施する。 zoomのURLや授業資料等はCampusSquareに掲示し配信する。</p> <p>成績評価方法と基準 zoom参加と課題提出状況で出欠を登録し、2/3以上の出席を条件とし期末試験の成績で評価する。 筆記試験（30%）+ 課題レポート（30%）+ 授業レスポンス（25%）+ 出席（15%）</p>

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	保育・教職実践演習（幼・小）
授業コード	AI456
英語名称	Childcare/Teaching practical seminar(kindergarten / primary school)
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	藤井 志帆, 前嶋 深雪, 園山 博
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	本科目では、大学における保育教職課程の授業科目履修及び教職課程外での様々な活動を通じて身に付けた事項について、保育・教職に関わる人材としての重要な資質能力となるように、有機的に統合され、形成されることを目的に、保育・教職に必要な知識・技術・態度をより深く習得し、理解を深め、現場において能力を発揮するための内容を持つ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	幼児教育、初等教育経験のある教員を中心に、実践の中から見出される問題に対して指導方法を学べるように、学びのポイントを提示していく。
到達目標	次の4つの事項について、保育・教育に携わる自覚と学修を深めていくことを目標とする。 1. 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 2. 社会性や対人関係能力に関する事項 3. 幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項 4. 教科・保育内容等の指導力に関する事項 以上を到達目標とすることにより、学科のディプロマポリシーに掲げる「豊かな教養と倫理観を身に付けること」をはじめとして、【知識・技能】【使命感・思考力】【人間力・指導力】【創造的な保育や教育】に関する資質・能力を有する教育者となることを目指す。
計画・内容	第1回 インTRODクション（藤井・園山・前嶋） 第2回 法律と教育：子どもの権利条約と障害者権利条約（藤井・園山・前嶋） 第3回 法律と教育：インクルーシブ教育とインクルーシブ保育（藤井・園山・前嶋） 第4回 プロジェクト保育：理論の理解（藤井・園山・前嶋） 第5回 プロジェクト保育：構築のための考え方（藤井・園山・前嶋） 第6回 通知表等の評価の言葉（藤井・園山・前嶋） 第7回 おたよりの作成（藤井・園山・前嶋） 第8回 小学校模擬授業（藤井・園山・前嶋） 第9回 幼稚園模擬保育（藤井・園山・前嶋） 第10回 こども園（幼児期の保育と教育）に関して：ゲストスピーカー講話（藤井・園山・前嶋） 第11回 療育と福祉（放デイ等）に関して：ゲストスピーカー講話（藤井・園山・前嶋） 第12回 教育相談（不登校相談等）に関して：ゲストスピーカー講話（藤井・園山・前嶋） 第13回 幼稚園の教育に関して：ゲストスピーカー講話（藤井・園山・前嶋） 第14回 小学校の教育に関して：ゲストスピーカー講話（藤井・園山・前嶋） 第15回 まとめ：履修カルテのふりかえり（藤井・園山・前嶋）
授業の進め方	全体指導やグループ指導、模擬授業、ゲストスピーカー講話を組み合わせる授業を進める。

2025年度 東京西学部時間割

能動的な学びの実施	本授業では、課題に対してチームにより話し合いや発表があり、チーム活動を中心としたディスカッション及びプレゼンテーションを行う。
授業時間外の学修	○授業終了後の復習として、授業内容をまとめておくこと。 ○体験と知識を関連づけたり、記録としてつけたりするなど、学修ノートを作成すること。 (合計60時間程度)
教科書・参考書	特になし。必要な資料は授業時に配布する。
成績評価方法と基準	○授業参加及びコメントシート提出25%、課題発表50%、履修カルテ25%で総合的に評価する。
課題等に対するフィードバック	課題については、その都度にコメントフィードバックを行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照。
留意事項	
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoomを活用したリアルタイムオンライン授業とオンデマンド授業を併用して行う。 授業への参加，発言（25%），提出物・レポート（50%），履修カルテ（25%）に基づき，総合的に評価する。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	子ども家庭支援の心理学
授業コード	AI205
英語名称	Psychological Support for Families and Children
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	稲垣 馨
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	子どもが最初に出会う社会は家庭であり、家庭の中で子どもは発達していく。子ども自身の発達や精神保健に大きな影響を与える家庭の役割と機能について、現代の子育て家庭が置かれた社会的状況や課題、多様な家庭への理解等を含めて包括的に学ぶことで、保育者としての家庭支援のあり方を考えていく。
科目に関連する実務経験と授業への活用	臨床心理士、公認心理師、精神保健福祉士として家庭に対する心理的支援の経験を有している。子どもを含む家庭への支援について、実際の事例を取り上げて解説することで、高度な専門知識、実践的な問題解決能力を身に着けることができる。
到達目標	<p>家庭支援に関する保育の基礎的な知識を生かした実践を通して、専門性の理解を深めることができる。また家庭支援に関する保育課題について自ら考え、心理学的な視点から解決方法を提案することができる。さらに家庭支援に関する保育課題に関心を持ち続け、心理学的な視点から持続可能な解決に向けて取り組む意欲を維持することができる。</p> <p>学科が定めるディプロマポリシーに対応した到達目標は次の通りである。</p> <p>教育・保育現場で求められる家庭に関する心理学的な専門知識と技能を体系的に理解するとともに、家庭をとりまく社会の情報を分析し、家庭の支援に関する教育及び保育方法を実践することができる。【知識・技能】</p> <p>子どもを含む家庭に関わる際に、周囲の方々と協働しながら、家庭が抱える様々な心理的な課題や問題を見出し、その支援・解決に取り組むことができる【使命感・思考力】</p> <p>生命への思いやりをもって子どもや保護者と接する際に必要な観察・理解力を身に付けるとともに、子どもと家族の発達をバランスよく捉えて支援計画等を作成し、省察・改善することができる。【人間力・指導力】</p> <p>本科目の学びを通して、実践に必要な多様な家族のありかたに対応できる専門性やコミュニケーション力をつけ、未来を担う子どもを支える家庭への新たなアプローチを提案することができる。【創造的な保育や教育】</p>
計画・内容	<p>第 1回 イン트로ダクション 子どもの発達と家庭との関係</p> <p>第 2回 生涯発達の理論 1 乳幼児期～学童期前期</p> <p>第 3回 生涯発達の理論 2 学童期後期～青年期</p> <p>第 4回 生涯発達の理論 3 成人期、老年期</p> <p>第 5回 親になることと子育ての経験</p> <p>第 6回 現代社会における家族・家庭の意義と機能</p> <p>第 7回 子育て環境の変化と社会的状況</p> <p>第 8回 ライフコースと子育て期のワークライフバランス</p> <p>第 9回 子どものこころの問題と家族関係 子どもの精神機能の発達と保健</p> <p>第10回 子どものこころの問題と家族関係 子どもの精神保健の課題</p> <p>第11回 子どものこころの問題と家族関係 子どもの生活・生育環境とその影響</p> <p>第12回 多様な家庭への理解と支援</p> <p>第13回 特別な配慮を要する家庭への理解と支援</p> <p>第14回 家庭と地域への支援 コミュニティアプローチ</p> <p>第15回 授業総括</p>

2025年度 東京西学部時間割

授業の進め方	パワーポイントを使用した演習形式で、映像資料など適宜活用する。アクティブラーニングを積極的に行い、実践的に学んでいく。
能動的な学びの実施	グループディスカッション、グループワーク、理解を深め実践に役立つロールプレイングなどのアクティブラーニングも取り入れる。
授業時間外の学修	授業前は予め教科書の該当箇所を読み、不明な点をまとめておく。授業後は教科書やプリントを見直し、自分の講義ノートを整理する（合計60時間程度）
教科書・参考書	松本峰雄・池田りな・小林 玄・土屋 由ら（2022）.子ども家庭支援の心理学 演習ブック（よくわかる！ 保育士エクササイズ. ミネルヴァ書房
成績評価方法と基準	定期試験（60%）+レポート・提出物（40%）
課題等に対するフィードバック	学生の発表の都度、コメントを行う。レポート・提出物はコメントを付与して返却する。
オフィスアワー	CampusSquareを参照。
留意事項	保育士資格取得必須科目
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせる。 授業中課題50%と期末レポート50%で評価する。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	子どもの理解と援助
授業コード	AI325
英語名称	Assessment and Support for Children
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	稲垣 馨
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	保育現場での援助は子ども理解から始まる。子ども理解のためには、個々の発達や学びのプロセスについて学ぶことに加えて、つまずきや問題の要因、その背景は何かを捉える視点を習得することが必要となる。援助の際の多面的なアプローチには、他職種との連携など園内に留まらない広い視野と技術が求められる。この授業では援助につなげるための子ども理解の知識、実際の援助の方法や技術について、演習を通して実践的に学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	心理職として子どもや園、子育て支援に関わった実務経験を生かして、保育・教育現場での保育者による子ども理解とは何か、また必要な援助についての知識と技術について、事例を取り上げながら実践的な授業を行う。
到達目標	子どもの援助に結びつく子ども理解の意義と、子ども理解の際に保育者として身に付けるべき姿勢や視点について習得する。 学科が定めるディプロマポリシーに対応した到達目標は次の通りである。 教育・保育現場で求められる子ども理解と援助に関する専門知識と技能を体系的に理解するとともに、子ども理解に関する情報を分析、援助につなげる方法とプロセスを理解した上で実践することができる。【知識・技能】 子どもに関わる際に、周囲の方々と協働しながら、様々な子どもの課題や問題に対して解決方法を模索し、実践に取り組むことができる【使命感・思考力】 子どもの尊厳を守り、子どもに対する観察・理解力を身に付けるとともに、発達や育ちを基に支援計画を作成、省察・改善することができる。【人間力・指導力】 本科目の学びを通して、多様性のある子どもたちの活動に対応できる専門性やコミュニケーション力をつけ、未来を担う子どものための新たな教育・保育方法を提案することができる。【創造的な保育や教育】
計画・内容	第1回 学修グループの構成を行い、授業概要と評価法について 第2回 子どもを理解する視点 保育者と子どもの発達 第3回 子どもを理解する視点 子どもの生活や遊び 第4回 子どもを理解する視点 つまずきや課題 第5回 子どもを理解する視点 家族を含む環境とその変化 第6回 子どもを理解する視点 共感的理解と保育 第7回 子どもを理解する視点 養護と教育の一体的提供 第8回 子どもを理解する視点 保育における個と集団 第9回 子どもを理解する方法 観察、記録、評価 第10回 子どもを理解する方法 園内での共有 第11回 子どもを理解する方法 保護者を含む園外との共有 第12回 子ども理解に基づく援助 発達課題とつまずきに対する援助 第13回 子ども理解に基づく援助 特別な配慮を要する子どもと家族への援助 第14回 子ども理解に基づく援助 就学に向けての援助 第15回 授業総括
授業の進め方	演習形式となる。パワーポイントや映像資料など適宜活用して解説を行いつつ、アクティブラーニングにより実践的に学んでいく。

2025年度 東京西学部時間割

能動的な学びの実施	グループディスカッション、グループワーク、理解を深め実践に役立つロールプレイングなどのアクティブラーニングも取り入れる。
授業時間外の学修	授業前は予め教科書の該当箇所を読み、不明な点をまとめておく。授業後は教科書やプリントを見直し、自分の講義ノートを整理する（合計60時間程度）
教科書・参考書	伊藤雄一郎ら(2021). 子どもの理解と援助演習ブック よくわかる! 保育士エクササイズ8 ミネルヴァ書房 厚生労働省編 保育所保育指針解説 フレーベル館
成績評価方法と基準	定期試験（60％）+レポート・提出物（40％）
課題等に対するフィードバック	学生の発表の都度、コメントを行う。レポート・提出物はコメントを付与して返却する。
オフィスアワー	CampusSquareを参照。
留意事項	保育士資格取得必須科目。日頃から子どもや家族に関するニュースや話題について興味を持ち調べる姿勢が重要である。グループ単位で授業準備や活動を行うことが多いため、メンバー同士の協働や主体的に学ぶ姿勢が重視される。また演習形式であるため、グループ・ワークに参加しない場合は単位が認められない場合がある。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせる。 授業中課題50％と期末レポート50％で評価する。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	保育の心理学
授業コード	AI273
英語名称	Child Care Psychology
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	稲垣 馨
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	保育実践に必要な子どもの発達や学びに関する基礎的知識を習得し、子ども理解を深めることを目的とする。生涯発達の視点を持つ発達心理学に関する学びを通して、発達への援助の基本を理解する。また学びの過程や特性について学ぶことで、他者との相互的関わりや体験、環境の意義への理解を深める。
科目に関連する実務経験と授業への活用	保育・教育・医療の現場で、心理士として子どもから成人に関わった経験から、人間の生涯発達について臨床心理学的な視点による話題を提供する。
到達目標	<p>保育実践や子どもの発達にかかわる心理学の基礎知識を習得し、子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。また生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について理解し、保育との関連を考察することにより、保育現場での実践に活かすことができる。</p> <p>学科が定めるディプロマポリシーに対応した到達目標は次の通りである。</p> <p>教育・保育現場で求められる心理学に関する専門知識と技能を体系的に理解するとともに、子どもの心理に関する情報を分析し、子どもの育ちに即した教育及び保育方法を実践することができる。【知識・技能】</p> <p>子どもに関わる際に、周囲の方々と協働しながら、子どもに関する様々な心理的な課題や問題を見出し、その支援・解決に取り組むことができる【使命感・思考力】</p> <p>生命への思いやりをもって子どもと接し、子どもに対する観察・理解力を身に付けるとともに、発達や育ちを基に指導計画を作成し、省察・改善することができる。【人間力・指導力】</p> <p>本科目による学びを通して、多様性のある子どもたちの活動に対応できる専門性やコミュニケーション力をつけ、未来を担う子どものための新たな教育・保育方法を提案することができる。【創造的な保育や教育】</p>
計画・内容	<p>第1回 イン트로ダクション 保育心理学を学ぶ意義 子ども観と発達観</p> <p>第2回 子どもの発達課程 身体的機能と運動機能の発達</p> <p>第3回 子どもの発達過程 社会情動的発達</p> <p>第4回 子どもの発達課程 認知発達</p> <p>第5回 子どもの発達過程 言語の発達</p> <p>第6回 発達を捉える視点 子どもの発達を理解することの意義</p> <p>第7回 発達を捉える視点 子どもの発達と環境</p> <p>第8回 発達を捉える視点 発達理論と子ども観・保育観</p> <p>第9回 乳幼児期の学びと保育 学びに関する理論</p> <p>第10回 乳幼児期の学びと保育 学びの過程と特性</p> <p>第11回 乳幼児期の学びと保育 学びを支える保育とは</p> <p>第12回 他者との相互的関係性の発達</p> <p>第13回 保育実践の評価について</p> <p>第14回 生涯発達と発達援助</p> <p>第15回 授業総括</p>
授業の進め方	アクティブラーニングも取り入れた講義形式であり、パワーポイントや映像資料など適宜活用する。

2025年度 東京西学部時間割

授業の進め方	
能動的な学びの実施	グループディスカッション、グループワーク、理解を深め実践に役立つロールプレイングなどのアクティブラーニングも取り入れる。
授業時間外の学修	授業前は予め発達心理学や教育心理学等関係する教科書の該当箇所を読み、不明な点をまとめておく。授業後は教科書やプリントを見直し、自分の講義ノートを整理する（合計60時間程度）
教科書・参考書	特になし
成績評価方法と基準	定期試験（80%）+レポート・提出物（20%）
課題等に対するフィードバック	学生の発表の都度、コメントを行う。レポート・提出物はコメントを付与して返却する。
オフィスアワー	CampusSquareを参照。
留意事項	保育士資格取得必須科目
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせで実施する。 授業中課題50%と期末レポート50%で評価する。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	子ども家庭福祉
授業コード	AI250
英語名称	Child and Family Welfare
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	原 純子
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	現代の厳しい社会環境下に、様々な困難を抱える子ども家庭が多数存在する。貧困、虐待・DV、障害・疾患、非行など家庭内での問題解決が難しいこともあるが、「福祉」はそれを自己責任とせず、各子ども家庭の価値を認めて介入し、支援する。本講では、昨今の要支援・要保護家庭の困難を把握し、子ども家庭福祉の基本理念および子どもの人権に基づく福祉施策と、それを担う様々な専門職および職種間連携による支援展開について学びを深める。
科目に関連する実務経験と授業への活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園、保育所での乳幼児保育、子ども病院の入院児に対する医療保育、児童養護施設の入所児への養護、児童家庭支援センターにおける里親家庭への相談援助などの実務経験を活かし、多様な保育現場における様々な子どもへの保育の実際とそれを支える理論について講義する。 ・ 児童医療・福祉現場の第一線で支援に携わる現職の職員を外部講師として招聘し、実際の現場において必要な知識、技術について実践的に学ぶための演習を本学教員との協働において行う。
到達目標	<p>1. 子ども家庭福祉の理論と実践について理解を深め、困難を抱える子どもと家族を支援するための福祉施策について説明できる。</p> <p>2. 自らが目指す保育・教育現場において、子どもと家族が抱える困難を把握した際、そのケースをどのように理解し対応するかについて自らの考えを述べる。</p> <p>学科が定めるディプロマ・ポリシーに関する本科目の位置付けは以下の通りである。</p> <p>【教養と倫理観】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 困難を抱える子どもや家族に直接向き合う「福祉」に携わる者として必要な教養について理解を深める。 ・ 子どもと家族の生活やプライバシーに密接に関わる専門職としての倫理観について理解を深める。 <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもと家族に関するアクシデント・インシデントおよびその背景要因について、社会問題をも見渡す広い視野で理解を深める。 ・ 子どもと家族の困難は「自己責任」ではないという前提を踏まえた支援技術について理顔を深める。 <p>【使命感・思考力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもと家族の困難は、自分を含む社会に広く影響する問題であるとの認識を深め、その支援に携わる専門職としての保育士の社会的使命について考察を深める。 ・ 個々のケースの重篤性と、それに対する専門職間連携・協働の実際について理解を深める。 <p>【人間力・指導力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「人を支えるのは人」であることについて考察を深め、困難を抱える子どもと家族の言動に直面する自らの心理や態度についても省察し、福祉職として求められる在り方とそのための自らの課題、改善点について考察する。 <p>【創造的な保育や教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもと家族の困難事例を解決するためのマニュアルはないことを知り、効果的対応、介入、支援の実現のためには、それぞれの多様性と価値、ニーズに基づき、都度、個別的、創造的に工夫されねばならないことについて理解を深める。

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	<p>第1回 現代社会と子ども家庭福祉</p> <p>第2回 子どもの人権</p> <p>第3回 子ども家庭福祉の成立と展開（イギリス・アメリカ）</p> <p>第4回 子ども家庭福祉の成立と展開（日本）</p> <p>第5回 子ども家庭福祉の法体系・行財政</p> <p>第6回 子ども家庭福祉の機関・施設</p> <p>第7回 子どもと貧困への支援</p> <p>第8回 子ども虐待とDVへの支援</p> <p>第9回 障害のある子どもと家族への支援</p> <p>第10回 心理治療を必要とする子どもへの支援</p> <p>第11回 非行問題を抱える子どもへの支援</p> <p>第12回 子ども家庭福祉の専門職と連携</p> <p>第13回 【演習】 インシデント・プロセス法による事例研究（レクチャー・グループ討議）</p> <p>第14回 【演習】 インシデント・プロセス法による事例研究（グループ討議）</p> <p>第15回 【演習】 インシデント・プロセス法による事例研究（全体発表会・講評）</p>
授業の進め方	<p>【教員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本科目の理論について説明し、ポイントを提示する。 ・ 新聞記事や映像資料等を活用して関連事例を紹介し、それに対する解釈を述べる。 <p>【学生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートに、授業内容のポイントをまとめる。 ・ テーマに応じた問いについてグループ・ディスカッションを行う。 ・ 本講のまとめとして、グループにて子どもと家族の困難に関する事例研究を行い発表する。
能動的な学びの実施	<p>【グループ・ディスカッションと発表会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもと家族の福祉課題を知るために、参考文献、新聞記事、映像資料から実際の事例に触れ、それに対する理解や対応についてグループで討議し、発表する。 <p>【インシデント・プロセス法による事例研究会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本講のまとめとして、子どもと家族の困難事例についてインシデント・プロセス法を用いて検討し、事例に対する理解と対応について検討結果を発表する。
授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義内で説明する。
教科書・参考書	<p>教科書：喜多一憲・監修，堀場純也・編集 『子ども家庭福祉』 第2版，みらい</p> <p>参考書：中坪史典ら・編集 『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』 ミネルヴァ書房</p> <p>その他、講義内で関連書籍を紹介する。</p>
成績評価方法と基準	<p>筆記試験（30%）＋課題レポート（30%）＋授業レスポンス（25%）＋出席（15%）</p>
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受講生は、毎講終了後に、教員指定の「レス・フォーム（GoogleForms）」に対して、感想・考察、疑問・質問、意見・提案、自由記述の各項に分けて入力、送信する。 ・ 教員は、全受講生より収集されたレスを匿名化して作表し、受講生にメール添付にて送信することで、受講生は他者意見を知り、新たな知見や気づきを得る。 ・ レスに質問や誤った理解が記述されていれば、個人を特定しない形でメールあるいは次回講義で回答す

2025年度 東京西学部時間割

課題等に対するフィードバック	る。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童福祉施設への就職に関心がある者は、本講を履修することが望ましい。 ・ 本講への理解を深めるために、「社会福祉」「社会的養護」を履修することが望ましい。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>【非対面授業になった場合】</p> <p>授業の進め方 zoomを用い、時間割通りの時間帯に、オンライン授業を実施する。 zoomのURLや授業資料等はCampusSquareに掲示し配信する。</p> <p>成績評価方法と基準 zoom参加と課題提出状況で出欠を登録し、2/3以上の出席を条件とし期末試験の成績で評価する。 筆記試験（30%）+課題レポート（30%）+授業レスポンス（25%）+出席（15%）</p>

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	障害児保育
授業コード	AI305
英語名称	Inclusive Education
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	原 純子
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	「障害か？障がいか？」「そもそも障害とは何か？」について改めて問い、「障害は個人にあるのか、社会にあるのか」という視点を含め、世界的な潮流となった新たな障害観やソーシャル・インクルージョン、インクルーシブ保育という考え方について学ぶ。さらに、障害特性への理解を深め、障害のある子どもへの日常における配慮や発達支援とその家族への理解と支援について具体的に学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園での障害児保育、子ども病院での医療保育、児童養護施設での養護、児童家庭支援センターにおける里親家庭に措置された障害児への支援と里親への相談援助などの実務経験を活かし、多様な現場における様々な障害のある子どもへの支援の実際とそれを支える理論について、事例を用いて具体的に講義する。 児童医療・福祉現場の第一線で支援に携わる現職職員を外部講師として招聘し、実際の現場において必要な知識、技術について実践的に学ぶための演習を本学教員との協働において行う。
到達目標	<p>1．新たな障害観を踏まえたソーシャル・インクルージョンの理念とそれを実践するインクルーシブ保育について理解を深める。</p> <p>2．障害特性と発達支援への理解を深め、障害のある子どもと家族に対する保育者の役割について説明することができる。</p> <p>学科が定めるディプロマ・ポリシーに関する本科目の位置付けは以下の通りである。</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「障害は個人ではなく社会にある」という新たな障害観など、昨今の障害に対する国際的理解の進展について知見を拡充する。 様々な障害のある子どもと家族が有する社会的障壁とそれに対する支援策への理解を深め、保育者としての役割と専門的技術について具体的なイメージを深める。 <p>【使命感・思考力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育者は、障害の有無を問わず、目の前のすべての子どもの発達を支える者であるとの自覚を強化し、強い使命感を有して、障害児への効果的支援や方法について考察を深める。 <p>【人間力・指導力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害児（者）への差別の根幹にある人間の心理について洞察し、専門職のみならず人としての望ましい理解、対応および共生について考察を深める。 集団適応が難しい子どもへの理解を深め、本人とその他の子どもたち双方の成長発達のために望ましい環境の在り方について具体的に考察する。 <p>【創造的な保育や教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害のある子どもの個性に対する的確なアセスメントを踏まえた望ましい保育環境や方法について理解を深め、具体的に検討する。
計画・内容	<p>第1回 障害とはなにか：障害か？障がいか？</p> <p>第2回 新たな障害観：国際障害分類「ICIDH」から「ICF」へ</p> <p>第3回 障害児保育の歴史的変遷：ソーシャル・インクルージョンとインクルーシブ保育</p>

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	<p>第4回 障害特性の理解と発達支援 身体障害 / 肢体不自由</p> <p>第5回 障害特性の理解と発達支援 身体障害 / 視覚・聴覚・言語障害</p> <p>第6回 障害特性の理解と発達支援 知的障害 / ダウン症候群</p> <p>第7回 障害特性の理解と発達支援 発達障害 / ADHD</p> <p>第8回 障害特性の理解と発達支援 発達障害 / LD</p> <p>第9回 障害特性の理解と発達支援 発達障害 / ASD</p> <p>第10回 障害特性の理解と発達支援 重症心身障害・医療的ケア</p> <p>第11回 障害のある子どもの保育の実際と関係機関との連携</p> <p>第12回 障害のある子どもの家族への支援</p> <p>第13回 【演習】 障害のある子どもの事例研究（情報収集・グループ討議）</p> <p>第14回 【演習】 障害のある子どもの事例研究（資料作成）</p> <p>第15回 【演習】 障害のある子どもの事例研究（発表会・講評）</p>
授業の進め方	<p>【教員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本科目の理論について説明し、ポイントを提示する。 ・ 新聞記事や映像資料等を活用して関連事例を紹介し、それに対する解釈を述べる。 <p>【学生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートに、授業内容のポイントをまとめる。 ・ テーマに応じた問いについてグループ・ディスカッションを行う。 ・ 本講のまとめとして、グループにて障害のある子どもと家族に関する事例研究を行い発表する。
能動的な学びの実施	<p>【障害のある子どもと家族の事例研究会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害のある子どもと家族の事例について情報収集し、それに対する理解と対応についてグループ討議を行い、その結果について資料を作成をして発表する。
授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義中に説明する。
教科書・参考書	<p>教科書：小原敏郎ら・編 『子どもの育ちと多様性に向き合う障害児保育』 みらい</p> <p>その他、講義内で紹介する。</p>
成績評価方法と基準	<p>筆記試験（30%）+ 演習課題（30%）+ 授業レスポンス（25%）+ 出席（15%）</p>
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受講生は、毎講終了後に、教員指定の「レス・フォーム（GoogleForms）」に対して、感想・考察、疑問・質問、意見・提案、自由記述の各項目に分けて入力、送信する。 ・ 教員は、全受講生より収集されたレスを匿名化して作表し、受講生にメール添付にて送信することで、受講生は他者意見を知り、新たな知見や気づきを得る。 ・ レスに質問や誤った理解が記述されていれば、個人を特定しない形でメールあるいは次回講義で回答する。
オフィスアワー	<p>CampusSquareを参照</p>
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童福祉施設への就職に関心がある者は、本講を履修することが望ましい。 ・ 本講への理解を深めるために、「社会福祉」「子ども家庭福祉」「社会的養護」を履修することが望ましい。

2025年度 東京西学部時間割

非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>【非対面授業になった場合】</p> <p>授業の進め方 zoomを用い、時間割通りの時間帯に、オンライン授業を実施する。 zoomのURLや授業資料等はCampusSquareに掲示し配信する。</p> <p>成績評価方法と基準 zoom参加と課題提出状況で出欠を登録し、2/3以上の出席を条件とし期末試験の成績で評価する。 筆記試験（30%）+ 課題レポート（30%）+ 授業レスポンス（25%）+ 出席（15%）</p>
------------------------------------	---

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	保育実習指導（施設）
授業コード	AI309
英語名称	Practical Childcare Training Guidance 3
学期	2025年度通年（前・後）
単位	1.0
担当教員	原 純子, 望月 崇博, 原 純子
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	<p>本科目は保育実習（施設）の事前・事後に行われる。</p> <p>実習前は、保育実習（施設）の実際を振り返りながら保育実習指導（施設）における学びを復習し、自らの理解が足りなかった部分について強化する。さらに、実習先施設に係る十分な情報収集に自らの実体験を重ね、施設運営への理解を深める。また、保育実習（施設）で実際に記録した実習日誌への施設からの指導点など確認しながら、記録の習熟に努める。課題や必要書類の作成・提出は、終始自発的、主体的な姿勢で取り組み本実習に備える。</p> <p>実習後は、実習への振り返りを通して施設、子ども（利用者）、保育者（職員）へのさらなる理解を深め、自己覚知による今後の課題を明確にし、実習のまとめや自己評価について発表する。施設へのお礼、および施設行事やボランティアへの参加など今後の施設との関わりについても自発的・主体的に行う。</p>
科目に関連する実務経験と授業への活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園での障害児保育、子ども病院での医療保育、児童養護施設での養護、児童家庭支援センターにおける里親家庭の措置児支援などの実務経験を活かし、児童福祉施設における子どもへの支援の実際とそれを支える理論、特に専門職としての職業倫理について講義する。 ・ 児童・福祉現場の第一線で支援に携わる現職職員を外部講師として招聘し、実際の現場において必要な知識、技術について実践的に学ぶための演習を本学教員との協働において行う。
到達目標	<p>学科の定めるディプロマポリシーに関する科目の位置付けは以下の通り。</p> <p>【教養と倫理観】・ 施設実習の目的 と意義について理解する。</p> <p>・ 実習先施設、子ども（利用者）、保育者（職員）、自分（実習生）について理解する。</p> <p>【知識・技能】・ 施設実習における 観察の意義と方法、子ども（利用者）への理解と関わり方について理解する。</p> <p>・ 記録の意義について理解し、実習記録の書き方を知る。</p> <p>【人間力・指導力】・ 実習への必要事 項を確認し、準備を進めて本実習に備える。【創造的な保育や教育】</p> <p>・ 実習を振り返り、施設、子ども（利用者）、保育者（職員）への理解や学びのまとめ、自己評価について発表する。</p>
計画・内容	<p>< 事前指導 ></p> <p>第1回 保育実習（施設）の振り返り</p> <p>第2回 保育実習（施設）の振り返り</p> <p>第3回 保育実習指導（施設）の振り返りと学びの強化</p> <p>第4回 保育実習指導（施設）の振り返りと学びの強化</p> <p>第5回 実習先施設への理解の深化</p>

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	<p>第6回 実習先施設への理解の深化</p> <p>第7回 実習日誌の記録技術 保育実習（施設）での実習日誌の評価と修正</p> <p>第8回 実習日誌の記録技術 保育実習（施設）での実習計画の評価と修正</p> <p>第9回 実習日誌の記録技術 事例へのエピソード記録</p> <p>第10回 実習日誌の記録技術 事例へのエピソード記録</p> <p>第11回 施設実習の準備 必要書類の作成</p> <p>第12回 施設実習の準備 必要書類の確認</p> <p><事後指導></p> <p>第13回 実習施設へのお礼と今後の関わり</p> <p>第14回 実習の振り返りと自己評価</p> <p>第15回 実習のまとめと自己評価（実習発表会）</p>
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> 施設理解のための必要な理論や、施設実習の意義、目的への理解を経て、実際の実習に必要な事項について復習し、自発的・主体的に実習準備に取り組む。 施設実習は、学外の「実習先施設」の協力を得て行われるものであり、学内で完結できる取り組みではない。終始、多忙を極める協力施設と指導者への敬意と感謝をもって、指導を受けるものとしての真摯な取り組み姿勢が求められるため、日頃より、時間、約束を守る、指示や準備物、提出物を忘れないなど基本的な社会的態度について磨いていく。 子ども（利用者）にとって施設は「かけがえのない生活の場」であるため、そこに外部者と出入りする者としての強い自覚が求められる。子ども（利用者）の個人情報の漏洩などの権利侵害をすることがないよう、日頃から施設における職業倫理について意識し、自らの態度を顧みていく必要がある。
能動的な学びの実施	<ul style="list-style-type: none"> 本科目においては、学外施設における「実習生」本人としての強い自覚のもとに、講義や演習に対して受動的態度ではなく、授業時間外の実習先施設に係る情報収集や実習計画などの諸課題に対して、能動的姿勢による意欲的な学びが求められる。
授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> 講義中に説明する。
教科書・参考書	<p>教科書：河合高鋭ら・編 『保育士を目指す人のための施設実習ガイド』 みらい</p> <p>その他、講義内で紹介する。</p>
成績評価方法と基準	<p>課題履行（25%）＋課題内容（25%）＋受講・取り組み姿勢（35%）＋出席（15%）</p>
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> 提出課題の内容に応じて、適宜指導する。
オフィスアワー	<p>CampusSquareを参照</p>
留意事項	<p>【事前指導に関する留意点】</p> <ol style="list-style-type: none"> 無断欠席は、原則1回で実習中止となる。 病欠欠席の場合は、医療機関の診断書等の提出が必要となる。 事前の欠席連絡・相談があった場合は原則3回まで許容されるが、状況次第では実習中止になる。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>【非対面授業になった場合】</p> <p>授業の進め方 zoomを用い、時間割通りの時間帯に、オンライン授業を実施する。</p> <p>zoomのURLや授業資料等はCampusSquareに掲示し配信する。</p> <p>成績評価方法と基準 zoom参加と課題提出状況で出欠を登録し、2/3以上の出席を条件とし期末試験の成績で評価する。</p>

2025年度 東京西学部時間割

非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	筆記試験（30%）+ 課題レポート（30%）+ 授業レスポンス（25%）+ 出席（15%）
------------------------------------	---

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	子ども家庭支援論
授業コード	AI276
英語名称	Family and Child Support
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	原 純子
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	現代は、家庭内では抱えきれない困難に対して自己責任論を突き付けたり、自己解決を求めたりする時代ではなく、子育て支援は国の責務と捉えて社会全体で支えていこうとする時代である。本講では、「子ども家庭福祉」に引き続き、要支援家庭の現状と課題を把握し、子ども家庭の福祉を図るフォーマル、インフォーマルな社会資源と支援体制について具体的に学ぶ。さらに、地域における多様な支援展開の実際に触れ、その意義について考察するための演習に比重を置く。
科目に関連する実務経験と授業への活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童養護施設での養護、子ども病院での入院児とその家族支援、児童家庭支援センターでの里子と里親支援などの実務経験を活かし、子ども家庭の多様性とその困難やニーズ、そのための支援展開の実際について講義する。 ・ 自治体職員との協働による子ども虐待予防活動（オレンジリボン運動）の実務経験を活かし、地域でフォーマルな支援を行う自治体との連携・協働の必要性について講義し、街頭啓発活動を実施する。 ・ 子ども食堂へのフィールドワークや学生ボランティアの依頼を重ねた実務経験から、地域でインフォーマルな支援を展開する子ども食堂と連携し、活動調査・参加の機会を企画する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1．現代の子ども家庭の現状と課題および支援の責任や意義について理解を深める。 2．子ども家庭福祉の福祉を図る様々な社会資源と支援体制について説明できる。 3．地域のフォーマル・インフォーマルな支援に参加し、その意義について自らの考察を深める。 <p>学科が定めるディプロマ・ポリシーに関する本科目の位置付けは以下の通りである。</p> <p>【教養と倫理観】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現代の子育て支援は、フォーマル、インフォーマルそれぞれ多様に展開されていることについて知見を拡充する。 ・ 福祉の専門職として、支援を要する子どもと家族への倫理的な理解と態度について理解を深め、それを身に付けるための自らの課題を省察する。 <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子育てにおける困難事例の実際と、それに対する専門職に求められる知識、技術、態度について理解を深める。 ・ 実際の子育て支援に携わる専門職の実践に触れ、その技能を身に付けるにあたり自らの課題について省察する。 <p>【人間力・指導力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際のフォーマル・インフォーマル支援の現場で、子どもと家族支援に際して多くの課題に対峙し、奮闘する専門職の実際に触れ、専門性を越えた「人として」の在り方や思いやりについても考察を深める。 <p>【創造的な保育や教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インフォーマル支援において、子どもや家族の多様性に基づき様々な工夫を展開する現場の実践に触れ、個別的ケアの質を上げるオリジナリティな工夫の必要について考察する。 ・ 自発的、主体的な工夫や提案を実現するための、自らの課題や障壁についても省察する。
計画・内容	<p>第1回 子ども家庭支援の社会的背景と基本理念</p> <p>第2回 子ども家庭支援の責任と法制度</p>

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	<p>第3回 子ども家庭に対する支援体制 子育て支援施策</p> <p>第4回 子ども家庭に対する支援体制 フォーマルな社会資源</p> <p>第5回 子ども家庭に対する支援体制 児童虐待と要保護児童</p> <p>第6回 【演習】 学生によるオレンジリボン運動（啓発準備）</p> <p>第7回 【演習】 学生によるオレンジリボン運動（啓発準備）</p> <p>第8回 【演習】 学生によるオレンジリボン運動（啓発活動）</p> <p>第9回 【演習】 学生によるオレンジリボン運動（啓発啓発）</p> <p>第10回 子ども家庭に対する支援体制 インフォーマルな社会資源</p> <p>第11回 【演習】 地域の子ども食堂（調査・参加活動）</p> <p>第12回 【演習】 地域の子ども食堂（調査・参加活動）</p> <p>第13回 【演習】 地域の子ども食堂（発表準備）</p> <p>第14回 【演習】 地域の子ども食堂（発表会）</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業の進め方	<p>【教員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本科目の理論について説明し、ポイントを提示する。 ・ 新聞記事や映像資料等を活用して関連事例を紹介し、それに対する解釈を述べる。 <p>【学生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートに、授業内容のポイントをまとめる。 ・ テーマに応じた問いについてグループ・ディスカッションを行う。 ・ 本講のまとめとして、グループにて子どもと家族の困難に関する事例研究を行い発表する。
能動的な学びの実施	<p>【学生によるオレンジリボン運動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域のフォーマルな支援として、児童虐待への対応と被虐待児と家族支援を行う自治体職員に協力を求め、児童虐待防止を呼び掛けるための印刷物や啓発物を準備して街頭啓発活動を行う。 <p>【子ども食堂への調査・参加活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域でインフォーマルな支援を展開する子ども食堂への調査・参加活動を行い、その意義について考察し発表する。
授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義内で説明する。
教科書・参考書	<p>教科書：松本峰雄・監修 『子ども家庭支援論演習ブック』 みらい</p> <p>参考書：山縣文治・集 『保育者のための子ども虐待Q&A』 みらい</p> <p>その他、講義内で関連書籍を紹介する。</p>
成績評価方法と基準	<p>筆記試験（30％）＋課題レポート（30％）＋授業レスポンス（25％）＋出席（15％）</p>
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受講生は、毎講終了後に、教員指定の「レス・フォーム（GoogleForms）」に対して、感想・考察、疑問・質問、意見・提案、自由記述の各項に分けて入力、送信する。 ・ 教員は、全受講生より収集されたレスを匿名化して作表し、受講生にメール添付にて送信することで、受講生は他者意見を知り、新たな知見や気づきを得る。 ・ レスに質問や誤った理解が記述されていれば、個人を特定しない形でメールあるいは次回講義で回答する。
オフィスアワー	<p>CampusSquareを参照</p>

2025年度 東京西学部時間割

留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本講への理解を深めるために、「社会福祉」「子ども家庭福祉」「社会的養護」を履修することが望ましい。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>【非対面授業になった場合】</p> <p>授業の進め方 zoomを用い、時間割通りの時間帯に、オンライン授業を実施する。 zoomのURLや授業資料等はCampusSquareに掲示し配信する。</p> <p>成績評価方法と基準 zoom参加と課題提出状況で出欠を登録し、2/3以上の出席を条件とし期末試験の成績で評価する。 筆記試験（30%）+ 課題レポート（30%）+ 授業レスポンス（25%）+ 出席（15%）</p>

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	保育の計画と評価
授業コード	AI275
英語名称	The childcare plan and assessment
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	原 純子
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	保育者は、子どもの姿一つひとつを捉えてその気持ちを汲み取り、一人ひとりに応じた成長発達を支える専門職であり、保育はその目的や目標を実現するための「計画」に基づき「実践」され、「評価」による「改善」を次の「計画」に繋げるという営みである。本講では、保育における計画と評価の基本的事項と、指導計画や保育記録の作成技術について学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	・ 幼稚園、保育所での乳幼児保育、子ども病院での医療保育、児童養護施設での養護、児童家庭支援センターでの里親家庭の措置児への支援などの実務経験を活かし、PDCAサイクルに基づく保育、養護、支援展開の意義と方法について、事例を用いて具体的に講義する。
到達目標	<p>1．保育の計画と評価の基本的事項について学び、その意義と必要性を理解する。 2．実際の保育現場で求められる保育計画や保育記録の作成技術を習得する。</p> <p>学科が定めるディプロマ・ポリシーに関する本科目の位置付けは以下の通りである。</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育の専門性に基づく日々の活動実践においては、事前計画と事後評価が重要であることを理解する。 ・ 保育の計画は、対象クラスに対する一律的なものではなく、子ども一人ひとりの存在により集団がなされていること、その個別性への理解に基づく立案に意義があるという前提で作成されることについて理解を深める。 ・ 保育の評価は、「達成目標」に基づく子どもの達成度や習熟度のみで評価されるものではなく、子どもが望ましい方向に変化しているかという「方向目標」が重要視されていることに理解を深める。 ・ 保育の計画・評価、記録のための具体的方法や技術を理解し、演習を通して習熟を図る。 <p>【使命感・思考力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者は、子どもの日々の発達を支える者であるとの自覚を強化し、強い使命感を有して、子どもの健全な発達に寄与する保育の計画・評価技術の習熟に努める。 <p>【人間力・指導力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育記録の作成を通して、子どもへの観察・理解が深まることを、実践を通して理解を深める。 ・ 評価や記録を通した子どもへの理解を踏まえて、次段階課題や指導計画が提案されることについて理解を深める。 <p>【創造的な保育や教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の子どもの実態と次段階課題を見据えた、個別的で創造的な保育の計画が必要であることについて、実際の演習を通して理解を深める。
計画・内容	<p>第1回 保育の計画と評価の基本 保育の目的・目標と計画</p> <p>第2回 保育の計画と評価の基本 保育におけるカリキュラムとは</p> <p>第3回 保育の計画と評価の基本 子ども理解に基づくPDCAサイクルの循環</p> <p>第4回 保育の計画 全体的な計画とは</p>

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	<p>第5回 【演習】 保育の計画 0・1・2歳児 / 長期的な指導計画の作成</p> <p>第6回 【演習】 保育の計画 0・1・2歳児 / 短期的な指導計画の作成</p> <p>第7回 【演習】 保育の計画 0・1・2歳児 / 指導計画作成上の留意事項</p> <p>第8回 【演習】 保育の計画 3・4・5歳児 / 長期的な指導計画の作成</p> <p>第9回 【演習】 保育の計画 3・4・5歳児 / 短期的な指導計画の作成</p> <p>第10回 【演習】 保育の計画 3・4・5歳児 / 指導計画作成上の留意事項</p> <p>第11回 保育の計画 異年齢児 / 指導計画作成上の留意事項</p> <p>第12回 保育の計画 指導計画に基づく保育の柔軟な計画</p> <p>第13回 保育の評価 保育の記録と省察</p> <p>第14回 保育の評価 保育の評価と改善</p> <p>第15回 保育の評価 小学校へつなげるための要録</p>
授業の進め方	<p>【教員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本科目の理論について説明し、ポイントを提示する。 <p>【学生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークブック各項の演習課題に取り組む。
能動的な学びの実施	<p>【指導計画・保育記録の作成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年齢に応じた短期計画・長期計画を作成する。
授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義内で説明する。
教科書・参考書	<p>教科書：松本峰雄・監修 『よくわかる！保育士エクササイズ 保育の計画と評価 演習ブック』 ミネルヴァ書房</p> <p>その他、講義内で関連書籍を紹介する。</p>
成績評価方法と基準	<p>演習課題（60%）+ 授業レスポンス（25%）+ 出席（15%）</p>
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受講生は、毎講終了後に、教員指定の「レス・フォーム（GoogleForms）」に対して、感想・考察、疑問・質問、意見・提案、自由記述の各項に分けて入力、送信する。 ・ 教員は、全受講生より収集されたレスを匿名化して作表し、受講生にメール添付にて送信することで、受講生は他者意見を知り、新たな知見や気付きを得る。 ・ レスに質問や誤った理解が記述されていれば、個人を特定しない形でメールあるいは次回講義で回答する。
オフィスアワー	<p>CampusSquareを参照</p>
留意事項	
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>【非対面授業になった場合】</p> <p>授業の進め方</p> <p>zoomを用い、時間割通りの時間帯に、オンライン授業を実施する。</p> <p>zoomのURLや授業資料等はCampusSquareに掲示し配信する。</p> <p>成績評価方法と基準</p> <p>zoom参加と課題提出状況で出欠を登録し、2/3以上の出席を条件とし期末試験の成績で評価する。</p> <p>筆記試験（30%）+ 課題レポート（30%）+ 授業レスポンス（25%）+ 出席（15%）</p>

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	保育実習指導（施設）
授業コード	AI280
英語名称	Practical Childcare Training Guidance 1 (Welfare Institution)
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	原 純子, 望月 崇博
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	<p>本科目は保育実習（施設）の事前・事後に行われる。</p> <p>実習前は、施設実習の意義や目的、実習内容、実習での観察・関わり・記録・評価などの基本的な学びを踏まえ、実習に臨む態度と職業倫理、事前学習と事前指導、実習目標と計画、実習日誌などについて具体的に学び、必要書類を作成して本実習に備える。</p> <p>実習後は、実習への振り返りにより施設、子ども（利用者）、保育者（職員）への理解を深め、自己覚知による今後の課題を明確にし、実習のまとめや自己評価について発表する。また、施設へのお礼方法、および施設行事やボランティアへの参加など今後の施設との関わりについて学ぶ。</p>
科目に関連する実務経験と授業への活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園での障害児保育、子ども病院での医療保育、児童養護施設での養護、児童家庭支援センターにおける里親家庭の措置児支援などの実務経験を活かし、児童福祉施設における子どもへの支援の実際とそれを支える理論、特に専門職としての職業倫理について講義する。 ・ 児童・福祉現場の第一線で支援に携わる現職職員を外部講師として招聘し、実際の現場において必要な知識、技術について実践的に学ぶための演習を本学教員との協働において行う。
到達目標	<p>学科の定めるディプロマポリシーに関する科目の位置付けは以下の通り。</p> <p>【教養と倫理観】・ 施設実習の目的 と意義について理解する。</p> <p>・ 実習先施設、子ども（利用者）、保育者（職員）、自分（実習生）について理解する。</p> <p>【知識・技能】・ 施設実習における 観察の意義と方法、子ども（利用者）への理解と関わり方について理解する。</p> <p>・ 記録の意義について理解し、実習記録の書き方を知る。</p> <p>【人間力・指導力】・ 実習への必要事 項を確認し、準備を進めて本実習に備える。【創造的な保育や教育】</p> <p>・ 実習を振り返り、施設、子ども（利用者）、保育者（職員）への理解や学びのまとめ、自己評価について発表する。</p>
計画・内容	<p><事前指導></p> <p>第1回 施設実習の意義と目的</p> <p>第2回 施設実習の内容 施設について知る 子ども（利用者）について知る</p> <p>第3回 施設実習の内容 保育者（職員）について知る 自分について知る</p> <p>第4回 施設実習の基本 子ども（利用者）の観察・関わり・記録</p> <p>第5回 施設実習の基本 実習評価</p> <p>第6回 施設実習の準備 実習に臨む態度と職業倫理</p>

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	<p>第7回 施設実習の準備 事前学習と事前指導（オリエンテーション）</p> <p>第8回 施設実習の準備 実習目標の明確化と実習計画の立案</p> <p>第9回 施設実習の準備 実習日誌の意義と記録方法</p> <p>第10回 施設実習の準備 実習日誌の記録技術</p> <p>第11回 施設実習の準備 実習日誌の記録技術</p> <p>第12回 施設実習の準備 実習に必要な書類作成</p> <p><事後指導></p> <p>第13回 実習施設へのお礼と今後の関わり</p> <p>第14回 実習の振り返りと自己評価</p> <p>第15回 実習のまとめと自己評価（実習発表会）</p>
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> 施設理解のための必要な理論や、施設実習の意義、目的への理解を経て、実際の実習に必要な学び、準備に取り組む。 施設実習は、学外の「実習先施設」の協力を得て行われるものであり、学内で完結できる取り組みではない。終始、多忙を極める協力施設と指導者への敬意と感謝をもって、指導を受けるものとしての真摯な取り組み姿勢が求められるため、日頃より、時間、約束を守る、指示や準備物、提出物を忘れないなど基本的な社会的態度を身に付けていく。 子ども（利用者）にとって施設は「かけがえのない生活の場」であるため、そこに外部者と出入りする者としての強い自覚が求められる。子ども（利用者）の個人情報への漏洩などの権利侵害をすることがないよう、日頃から施設における職業倫理について意識し、自らの態度を顧みていく必要がある。
能動的な学びの実施	<ul style="list-style-type: none"> 本科目においては、学外施設における「実習生」本人としての強い自覚のもとに、講義や演習に対して受動的態度ではなく、授業時間外の実習先施設に係る情報収集や実習計画などの諸課題に対して、能動的姿勢による意欲的な学びが求められる。
授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> 講義中に説明する。
教科書・参考書	<p>教科書：河合高鋭ら・編 『保育士を目指す人のための施設実習ガイド』 みらい</p> <p>その他、講義内で紹介する。</p>
成績評価方法と基準	<p>課題履行（25%）＋課題内容（25%）＋受講・取り組み姿勢（35%）＋出席（15%）</p>
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> 提出課題の内容に応じて、適宜指導する。
オフィスアワー	<p>CampusSquareを参照</p>
留意事項	<p>【事前指導に関する留意点】</p> <ol style="list-style-type: none"> 無断欠席は、原則1回で実習中止となる。 病気欠席の場合は、医療機関の診断書等の提出が必要となる。 事前の欠席連絡・相談があった場合は原則3回まで許容されるが、状況次第では実習中止になる。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>【非対面授業になった場合】</p> <p>授業の進め方 zoomを用い、時間割通りの時間帯に、オンライン授業を実施する。 zoomのURLや授業資料等はCampusSquareに掲示し配信する。</p> <p>成績評価方法と基準 zoom参加と課題提出状況で出欠を登録し、2/3以上の出席を条件とし期末試験の成績で評価する。 筆記試験（30%）＋課題レポート（30%）＋授業レスポンス（25%）＋出席（15%）</p>

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	教育課程論
授業コード	AI204
英語名称	Theory of Educational Curriculum
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	宇佐美 健
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	講義を通じて教育課程について基礎的な知識を身につける。その際、学生自身が受けてきた教育経験を振り返り、学生同士の対話を通して、自分の学校観・教育観を見つめ直すことを重視する。教育者を志す者としての資質・能力、さらに社会人基礎力や自己実現能力を身につけることを目指す。
科目に関連する実務経験と授業への活用	元公立中学校教諭（平成21年度～令和5年度）
到達目標	「教育者としての幅広い教養を身につけ、さらに教職の専門的知識や技能を養う」というカリキュラムポリシー、特に（2）「教員や保育者として身につけるべき基礎科目」にもとづいて、以下の目標を定める。 ・学校教育において教育課程が有する役割と意義について理解する ・カリキュラム・マネジメントの意義を理解し、学生と協働しながら課題に取り組むことができる。 ・学校の教育実践に即した教育課程編成の方法について理解する ・カリキュラムの構想し、多様性のある子どもたちに対応できる専門性の基礎を築く。”
計画・内容	<p>第1回 イン트로ダクション 自分の学校体験を振り返り、自身の学校観や教育観を見つめる</p> <p>第2回 教育課程の基礎的事項 : 目的と目標、学習指導要領</p> <p>第3回 教育課程の基礎的事項 : カリキュラムの種類、潜在的カリキュラム</p> <p>第4回 日本の教育課程の変遷 : 資質・能力の育成、主体的・対話的で深い学び</p> <p>第5回 日本の教育課程の変遷 : 経験主義と系統主義、絶対評価と相対評価</p> <p>第6回 日本の教育課程の変遷 : 「ゆとり教育」、目標に準拠した評価</p> <p>第7回 日本の教育課程の変遷 : カリキュラム・マネジメントの実例についての考察</p> <p>第8回 日本の教育課程の変遷 : 第5回の調査のプレゼンとディスカッション</p> <p>第9回 世界で求められている教育課程 : 構成主義的な学習観、学習者中心の教育</p> <p>第10回 世界で求められている教育課程 : 真正の学び、本質的な問い</p> <p>第11回 世界で求められている教育課程 : 真正の評価（ポートフォリオ評価、ルーブリック評価）</p> <p>第12回 これからのカリキュラムの構想 : オルタナティブ教育</p> <p>第13回 これからのカリキュラムの構想 : 外発的動機づけ、内発的動機づけ</p>

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	第14回 これからのカリキュラムの構想 : グループによる単元計画づくり 第15回 これからのカリキュラムの構想 : 第13回までの計画のプレゼンとディスカッション
授業の進め方	講義形式で教育課程について学んだ上で、話し合いを通して現代の教育課程をめぐる課題についての理解を深める。事前に先進的な事例を調べておき、学生の話題提供により授業を進めることもある。授業担当者は話し合いのファシリテーターとなる。
能動的な学びの実施	講義形式で理論を学ぶ場面以外は、基本的に学生の能動的な学びが求められる。特に学生同士の対話を通して、自分の学校観・教育観を見つめ直すこと(リフレクション)を重視する。積極的にコミュニケーションをとることが望まれる。
授業時間外の学修	事前の調べ学習(授業内で明確に説明します)、授業で扱った教育課程の基礎的事項や、日本の教育課程の変遷についての復習、プレゼンテーションに向けた調査・準備などを含めて、60時間程度。
教科書・参考書	教科書は指定しない。適宜、資料を配布する。 参考書 文部科学省(2018)小学校学習指導要領(平成29年告示)解説総則編, 東洋館出版社
成績評価方法と基準	授業内で提出する課題及び授業への参加態度(30%) プレゼンテーション×2回(30%) 定期試験レポート(40%)
課題等に対するフィードバック	課題については、次の回でコメントを加え、適宜資料を配布する。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoomによる授業と、課題提出を組み合わせ対応する。 授業内で提出する課題: 50%、期末レポート: 50%

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	教育原理
授業コード	AI116
英語名称	Principles of Education
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	宇佐美 健
記入不要 ナンバリングコード	BJ103
授業の概要	「教育とは何か」という問いをもとに、教育の基礎的な概念や歴史、思想を学ぶ。その際、学生自身が受けてきた教育経験を振り返り、学生同士の対話を通して、自分の教育観を見つめ直すことを重視する。教育者を志す者としての資質・能力を育成することを目指す。
科目に関連する実務経験と授業への活用	元公立中学校教諭（平成21年度～令和5年度）
到達目標	<p>「教育者としての幅広い教養を身につけ、さらに教職の専門的知識や技能を養う」というカリキュラムポリシー、特に（2）「教員や保育者として身につけるべき基礎科目」にもとづいて、以下の目標を定める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の基本的概念と、教育を成り立たせる要素の相互関係を理解している。 ・現代の教育課題を歴史的な視点から考え、学生と協働しながら課題に取り組むことができる。 ・教育に関する様々な思想、それらと実際の教育及び学校との関わりを理解している。 ・現代の教育課題を理解し、多様性のある子どもたちに対応できる専門性の基礎を築く。
計画・内容	<p>第1回 イン트로ダクション 自分の教育観を見つめる</p> <p>第2回 教育の基礎的な概念 : 教育、学習、指導</p> <p>第3回 現在の日本の教育課題 : 主体的・対話的で深い学び、個別最適な学びと協働的な学び</p> <p>第4回 現在の日本の教育課題 : カリキュラム・マネジメント、ICTの活用</p> <p>第5回 日本の教育史と世界の教育思想 : 系統主義、教育の科学化、ヘルバルトなど</p> <p>第6回 日本の教育史と世界の教育思想 : 経験主義、子ども中心主義、デューイなど</p> <p>第7回 日本の教育史と世界の教育思想 : オルタナティブ教育についての調査</p> <p>第8回 日本の教育史と世界の教育思想 : 第5回の調査のプレゼンとディスカッション</p> <p>第9回 現在の日本の教育課題 : 学力テスト、スタンダード化、ユニバーサルデザイン</p> <p>第10回 現在の日本の教育課題 : いじめ、不登校、発達障害</p> <p>第11回 現在の日本の教育課題 : 貧困と格差、教師の多忙化</p> <p>第12回 教育の基礎的な概念 : 子ども、家庭、仕事、社会、ルソーなど</p> <p>第13回 教育の基礎的な概念 : 社会化、学校、公教育、脱学校論、イリッチなど</p>

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	第14回 現在の日本の教育課題 : 教育課題 について、歴史や思想を踏まえて考察する 第15回 現在の日本の教育課題 : 第13回の考察のプレゼンとディスカッション
授業の進め方	講義形式で教育の歴史や思想を学んだ上で、話し合いを通して現代の教育課題についての理解を深める。事前に先進的な事例を調べておき、学生の話題提供により授業を進めることもある。授業担当者は話し合いのファシリテーターとなる。
能動的な学びの実施	講義形式で教育の歴史や思想を学んだ上で、話し合いを通して現代の教育課題についての理解を深める。事前に先進的な事例を調べておき、学生の話題提供により授業を進めることもある。授業担当者は話し合いのファシリテーターとなる。
授業時間外の学修	事前の調べ学習(授業内で明確に説明します)、授業で扱った歴史や思想、現代の教育課題の復習、プレゼンテーションに向けた調査・準備などを含めて、60時間程度。
教科書・参考書	教科書は指定しない。適宜、資料を配布する。 参考書 木村元・汐見稔幸(2020) アクティベート教育学01 教育原理, ミネルヴァ書房 苫野一徳(2019) 「学校」をつくり直す, 河出新書
成績評価方法と基準	授業内で提出する課題及び授業への参加態度(30%) プレゼンテーション×2回(30%) 定期試験レポート(40%)
課題等に対するフィードバック	課題については、次の回でコメントを加え、適宜資料を配布する。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoomによる授業と、課題提出を組み合わせ対応する。 授業内で提出する課題: 50%、期末レポート: 50%

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	子どもと環境
授業コード	AI123
英語名称	Children and Environment
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	三宅 美千代
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	領域「環境」に関して、子どもを取り巻く環境の諸側面や、発達に応じた環境との関わりについて習得します。特に領域「環境」で扱う自然環境、文化的環境、地域・社会的環境への探究を深めます。さらに大学内外における四季折々の自然に目を向け、実際に触れることにより、その多様性を五感で感じながら身近な自然への興味関心を高めます。
科目に関連する実務経験と授業への活用	小児病棟、療育センター、保育所等における保育及び療養・療育の場における子どもの環境を構成する実務経験を活かして指導する。
到達目標	<p>本科目は、こども学科が定めるディプロマ・ポリシー「2. 教育・保育に求められる専門知識と技能を体系的に理解するとともに、子どもに関する情報を分析し、子どもの育ちに即した教育及び保育方法を実践することができる。【知識・技能】」および「教育学や保育学の学びを通して、多様性のある子どもたちの活動に対応できる専門性やコミュニケーション力をつけ、未来を担う子どものための新たな教育・保育方法を提案することができる。【創造的な保育や教育】」の習得のため、以下について系統立てて理解し、自らの保育として実践する力を養う。</p> <p>子どもを取り巻く環境と、子どもの発達にとっての意義を理解する。 自然環境を通し、子どもの思考・科学的概念の発達を理解する。 園内外の環境における標識・文字等、情報・施設との関わりでの発達を理解する。</p>
計画・内容	<p>第1回 授業オリエンテーション 領域「環境」のねらい及び内容</p> <p>第2回 子どもの発達と環境（1）0歳児の発達と環境</p> <p>第3回 子どもの発達と環境（2）1歳以上3歳未満児の発達と環境</p> <p>第4回 子どもの発達と環境（3）3歳以上児の発達と環境</p> <p>第5回 子どもを取り巻く物的環境・人的環境</p> <p>第6回 子どもを支える園内環境</p> <p>第7回 子どもを支える園庭環境</p>
授業の進め方	講義と演習を交えながら進めていきます。演習では、学内の敷地を散策しながら身近な自然に触れ、子どもにとっての興味や安全について感じたり調べたりしながら、五感を使った体験を通して学んでいきます。また、グループワークを通し、子どもの発達をイメージし、子どもにとっての環境の在り方を調べ、考察していきます。自らあるいはグループでの調べ学習については、発表資料を作成し、全体で共有していきます。
能動的な学びの実施	日頃から自然に関心を持ち、自然に触れ、五感を高めていくことを期待します。また、身の周りの自然で目に留まったものや面白いものなど、授業に持ち寄って、みんなで共有し、ディスカッションを通し、理解を深めてください。

2025年度 東京西学部時間割

授業時間外の学修	授業前に各回のテーマに沿って、関連する文献検索し目を通し、疑問に思ったことなどは事前に調べておいてください。 授業後には毎回授業の学びを自分なりに整理し、知識を定着させてください。(合計60時間程度)
教科書・参考書	【教科書】『体験する・調べる・考える 領域「環境」 第3版』萌文書林,2024. 『保育所保育指針解説』フレーベル館.2018. 『幼稚園教育要領解説』フレーベル館.2018. 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館.2018. 【参考書】適宜紹介する.
成績評価方法と基準	定期試験(60%) 小テスト・提出物(30%) 授業参加態度(10%)により総合的に成績を評価します。
課題等に対するフィードバック	毎授業におけるリフレクションペーパー内の質問に対し、次の授業で解説を行います。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	・配布資料が多いため、A4サイズのファイルを用意しファイリングをし、また専用のノートを作成するなど、自分なりに各回の授業内容を整理してください。 ・第1回目の授業でオリエンテーションを行います。必ず出席してください。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方：Zoomで授業内容を講義した後に、各自が課題に取り組み考えをまとめ、オンライン上で意見を発表し、議論します。授業内容の確認小テストを行い、Webフォームに直接入力し、その後解説を行います。 zoom授業への参加度(10%)、確認小テスト(20%)、レポート提出(20%)、最終確認試験(50%)により総合的に成績を評価します。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	子どもと環境
授業コード	AI124
英語名称	Children and Environment
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	三宅 美千代
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	「子どもと環境」における学びを念頭に置き、大学内外における四季折々の自然に触れながら、身近な環境との関わりに関して領域「環境」のねらいと内容を踏まえ、保育における援助と環境構成の実際を学びます。また、子どもが好奇心や探求心を持ち、自然環境、文化的環境、社会的環境といかに関わるのかについて、事例等を通して理解を深め、身近な素材を工夫しながら教材開発を行い、教育に活用できる素材を取り扱う五感や知識・技能を高め、保育を構想する力を養います。
科目に関連する実務経験と授業への活用	小児病棟、療育センター、保育所等における保育及び療養・療育の場における子どもの環境を構成する実務経験を活かして指導する。
到達目標	<p>本科目は、こども学科が定めるディプロマ・ポリシー「2. 教育・保育に求められる専門知識と技能を体系的に理解するとともに、子どもに関する情報を分析し、子どもの育ちに即した教育及び保育方法を実践することができる。【知識・技能】」および「教育学や保育学の学びを通して、多様性のある子どもたちの活動に対応できる専門性やコミュニケーション力をつけ、未来を担う子どものための新たな教育・保育方法を提案することができる。【創造的な保育や教育】」の習得のため、以下について系統立てて理解し、自らの保育として実践する力を養う。</p> <p>子どもを取り巻く環境と、子どもの発達にとっての意義を理解する。 子どもの思考・科学的概念の発達を理解する。 子どもの標識・文字等、情報・メディアとの関わりでの発達を理解する。</p>
計画・内容	<p>第1回 子どもと自然環境（1）身近な植物や生き物 第2回 子どもと自然環境（2）自然を取り入れた遊び 第3回 子どもと社会環境（1）保育における情報化 第4回 子どもと社会環境（2）社会環境と保育実践 第5回 子どもの生活の中の文字、数、図形 第6回 環境プロジェクト（1）散策や調べ学習 第7回 環境プロジェクト（2）資料作成や教材作り 第8回 授業の振り返りとまとめ</p>
授業の進め方	この授業に向けた自分なりのテーマや課題を持って自発的に授業に参加し、グループワークやディスカッションを多用しながら知識を定着させていきます。演習では、学内の敷地を散策しながら身近な自然に触れ、子どもにとっての興味や安全について感じたり調べたりしながら、五感を使った体験を通して学んでいきます。また、グループワークを通し、子どもの発達をイメージした自然素材を活用した教材作りを行います。自らあるいはグループでの調べ学習については、発表資料を作成し、全体で共有していきます。
能動的な学びの実施	日頃から自然に関心を持ち、自然に触れ、五感を高めていくことを期待します。また、身の周りの自然で目に留まったものや面白いものなど、授業に持ち寄って、みんなで共有し、ディスカッションを通し、理解を深めてください。
授業時間外の学修	授業前に各回のテーマに沿って、関連する文献検索し目を通し、疑問に思ったことなどは事前に調べておいてください。 授業後には毎回授業の学びを自分なりに整理し、知識を定着させてください。（合計60時間程度）

2025年度 東京西学部時間割

教科書・参考書	<p>【教科書】『体験する・調べる・考える 領域「環境」 第3版』萌文書林,2024. 『保育所保育指針解説』フレーベル館,2018. 『幼稚園教育要領解説』フレーベル館,2018. 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館,2018.</p> <p>【参考書】適宜紹介する。</p>
成績評価方法と基準	<p>定期試験(60%) 小テスト・提出物(30%) 授業参加態度(10%)により総合的に成績を評価します。</p>
課題等に対するフィードバック	<p>毎授業におけるリフレクションペーパー内の質問に対し、次の授業で解説を行います。</p>
オフィスアワー	<p>CampusSquareを参照</p>
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな環境に興味をもって、主体的に参加すること。 ・配布資料が多いため、A4サイズのファイルを用意しファイリングをし、また専用のノートを作成するなど、自分なりに各回の授業内容を整理してください。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>授業の進め方：Zoomで授業内容を講義した後に、各自が課題に取り組み考えをまとめ、オンライン上で意見を発表し、議論します。授業内容の確認小テストを行い、Webフォームに直接入力し、その後解説を行います。</p> <p>zoom授業への参加度(10%)、確認小テスト(20%)、レポート提出(20%)、最終確認試験(50%)により総合的に成績を評価します。</p>

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	保育の指導法（環境）
授業コード	AI157
英語名称	Teaching Methods for Child Care and Education (Environment)
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	三宅 美千代
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	子どもと環境との関わりや、子どもと環境の豊かな関わりを育むための指導内容と保育者の援助の在り方について概説します。また、五感を通して体感することを重視し、四季折々の自然に触れたり、季節ごとの身近な自然物を使用した製作を行なうという経験を通し、保育者に必要な感性を磨く機会を設けます。
科目に関連する実務経験と授業への活用	小児病棟、療育センター、保育所等におけるの保育及び療養・療育の場における子どもの環境を構成する実務経験を活かして指導する。
到達目標	<p>本科目は、こども学科が定めるディプロマ・ポリシー「2. 教育・保育に求められる専門知識と技能を体系的に理解するとともに、子どもに関する情報を分析し、子どもの育ちに即した教育及び保育方法を実践することができる。【知識・技能】」および「教育学や保育学の学びを通して、多様性のある子どもたちの活動に対応できる専門性やコミュニケーション力をつけ、未来を担う子どもたちのための新たな教育・保育方法を提案することができる。【創造的な保育や教育】」の習得のため、以下について系統立てて理解し、自らの保育として実践する力を養う。</p> <p>領域「環境」のねらい及び内容を踏まえ、子どもが経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。</p> <p>子どもの発達や学びの過程を踏まえ、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。</p> <p>模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。</p>
計画・内容	<p>第1回 授業オリエンテーション 環境の概要 保育における子どもの環境 5領域における領域「環境」の位置づけと「環境」の全体構成</p> <p>第2回 ものとの関わりの実践 子どもの身近にあるものと保育者の関わり</p> <p>第3回 子どもの身近にある素材で遊びを展開する方法 廃材を利用したおもちゃ作り</p> <p>第4回 自然との関わりの実践 子どもと自然との関わり 子どもが自然と関わりを深めるための視点</p> <p>第5回 子どもの安全な環境づくり</p> <p>第6回 子どもが安全に過ごせる園庭マップの作成</p> <p>第7回 自然との関わり方の指導法（1）植物との関わり</p> <p>第8回 自然との関わり方の指導法（2）生き物との関わり</p> <p>第9回 自然との関わり方の指導法（3）自然現象との関わり</p> <p>第10回 自然物を用いた遊び（1）散策と観察</p> <p>第11回 自然物を用いた遊び（2）製作と発表</p> <p>第12回 行事を活かした保育の展開</p> <p>第13回 指導案作成（1）教材研究と保育計画</p>

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	第14回 指導案作成(2)教材研究と保育計画 第15回 授業の振り返りとまとめ
授業の進め方	自らの子ども時代の気持ちを思い出しながら、子どもの好奇心を考えることを大切に、身近な自然をよく観察し、環境に対する子どもの興味、関心に注力し、この授業に向けた自分なりのテーマや課題を持って自発的に参加してください。各々の考えを持ち寄り、グループワークやディスカッションを多用しながら共有し、知識を定着させていきます。演習では、学内の敷地を散策しながら身近な自然に触れ、子どもにとっての興味や安全について感じたり調べたりしながら、五感を使った体験を通して学んでいきます。さらに、子どもの発達をイメージした自然素材を活用した教材作りを行い、調べ学習については、発表資料を作成し、全体で共有していきます。そして、留意・配慮点、環境構成などを踏まえた指導案を探索していきます。
能動的な学びの実施	日頃から自然に関心を持ち、自然に触れ、五感を高めていくことを期待します。また、身の周りの自然で目に留まったものや面白いものなど、授業に持ち寄って、みんなで共有し、ディスカッションを通し、理解を深めてください。
授業時間外の学修	授業前に各回のテーマに沿って、関連する文献検索し目を通し、疑問に思ったことなどは事前に調べておいてください。 授業後には毎回授業の学びを自分なりに整理し、知識を定着させてください。(合計60時間程度)
教科書・参考書	【教科書】『体験する・調べる・考える 領域「環境」 第3版』萌文書林,2024. 『保育所保育指針解説』フレーベル館,2018. 『幼稚園教育要領解説』フレーベル館,2018. 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館,2018. 【参考書】適宜紹介する。
成績評価方法と基準	定期試験(60%) 小テスト・提出物(30%) 授業参加態度(10%)により総合的に成績を評価します。
課題等に対するフィードバック	毎授業におけるリフレクションペーパー内の質問に対し、次の授業で解説を行います。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	・配布資料が多いため、A4サイズのファイルを用意しファイリングをし、また専用のノートを作成するなど、自分なりに各回の授業内容を整理してください。 ・第1回目の授業でオリエンテーションを行います。必ず出席してください。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方：Zoomで授業内容を講義した後に、各自が課題に取り組み考えをまとめ、オンライン上で意見を発表し、議論します。授業内容の確認小テストを行い、Webフォームに直接入力をし、その後解説を行います。 zoom授業への参加度(10%)、確認小テスト(20%)、レポート提出(20%)、最終確認試験(50%)により総合的に成績を評価します。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	子どもと言葉
授業コード	AI259
英語名称	Children and Language
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	前嶋 深雪
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	<p>○幼稚園・保育所・子ども園での指導やねらいの領域の一つに「言葉の獲得に関する領域」としての「言葉」がある。保育者・教育者として、子どもの言語獲得の理解と知識を深め、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における「言葉の獲得に関する領域（言葉）」を読み取り、保育・教育についての理解を深める授業内容を持つ。</p> <p>○「子どもと言葉」は理論編であり、演習内容を持つ「子どもと言葉」に接続している。</p>
科目に関連する実務経験と授業への活用	<p>○小学校での「学び合い」の校内研究の講師・中学校及び高等学校の国語科教諭としての経験と、若者を対象としたコミュニケーション講座講師の経験で獲得した国語（日本語）の能力を高める手法を活用する。言語知識としての習得及び言語運用をしながら体験を含め、「楽しみながら学ぶ」授業展開をしていく。知識のインプットと表現のアウトプットをバランスよく授業時間内に配置し、主体的・対話的で深い学びの体感を持てるようにする。</p>
到達目標	<p>○子どもの言語能力をささえる保育・教育者に必要な知識として「日本語」及び「言語獲得」に関する知識を深めること、子どもの言語の獲得のプロセスについて理解すること、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における「言葉の獲得に関する領域（言葉）」の解釈及び理解をすること、保育・教育の場での言語活動の用意のための手法を考えることを授業の目標とする。</p> <p>以上を到達目標とすることにより、学科のディプロマポリシーに掲げる「豊かな教養と倫理観を身につけること」をはじめとして、【知識・技能】【使命感・思考力】【人間力・指導力】【創造的な保育や教育】に関する資質・能力を有する教育者となることを目指す。</p>
計画・内容	<p>第1回 イン트로ダクション 言葉とは？（保育所指針・幼稚園教育要領との関連）</p> <p>第2回 言葉と人格形成 乳幼児期の言語能力と思考力</p> <p>第3回 ねらいと配慮事項 社会的発達・精神的発達と言葉</p> <p>第4回 領域「言葉」について 児童文化財と言葉/満1歳～満3歳未満と満3歳以上の比較</p> <p>第5回 領域「言葉」 満1歳以上～満3歳未満</p> <p>第6回 領域「言葉」 満3歳以上</p> <p>第7回 子どもの「ことば」と発達 言語能力の育成</p> <p>第8回 まとめ 理解度の確認：まとめ思考テスト（記述形式）</p>

2025年度 東京西学部時間割

授業の進め方	○各回テーマが異なるため、各回の授業目標と授業内で提示する設問について説明する時間をとる。各回のテーマごとに異なるメンバーで話し合いの時間を持ち、チームで考える時間と全体で共有し、理解を深める時間を配分しながら授業を展開していく。また、各回の授業の最後に、ふりかえりのコメントシートを提出する。
能動的な学びの実施	○学生相互で考えを伝え合い、一つの課題について合意形成・課題解決をする時間を持つ（チームで話し合うアクティブラーニングの形式を導入）。また、授業ごとにコメントシートに「新しい発見」を記入し、ポートフォリオとしてふりかえり、学修の深まりを実感できるようにする。
授業時間外の学修	○各回テーマが異なるため、授業終了後の復習として、授業内容をまとめておくこと ○教科書である「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」を読み、記述内容の把握と理解をしておくこと 約15時間相当の予習及び復習の時間を持つこと
教科書・参考書	教科書：幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 参考書：幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説 小林晴美・佐々木正人『新・子どもたちの言語獲得』大修館書店
成績評価方法と基準	○授業参加及びコメントシート提出50%とまとめ思考テスト50%にて、総合的に評価する。
課題等に対するフィードバック	○コメントシートでのふりかえりを授業の最初に紹介し、疑問や質問から考えを深めていく時間を持つ。
オフィスアワー	○CampusSquareを参照
留意事項	○考えを応答する時間や思考のアウトプットの多い授業となるため、体調やぐあいが悪いと十分な学びができなくなるので、健康に留意して授業に臨むこと。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方：Zoomによるオンライン授業にて実施する。 成績評価方法と基準：Zoom受講及びコメントシート提出50%とまとめ思考テスト50%にて、総合的に評価する。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	子どもと言葉
授業コード	AI260
英語名称	Children and Language
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	前嶋 深雪
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	<p>○幼稚園・保育所・子ども園での指導やねらいの領域の一つに「言葉の獲得に関する領域」としての「言葉」がある。保育者・教育者として、子どもの言語獲得の理解と知識を深め、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における「言葉の獲得に関する領域（言葉）」を読み取り、保育・教育についての理解を深める授業内容を持つ。</p> <p>○「子どもと言葉」は演習内容を含み、理論編である「子どもと言葉」から接続している。</p>
科目に関連する実務経験と授業への活用	<p>○小学校での「学び合い」の校内研究の講師・中学校及び高等学校の国語科教諭としての経験と、若者を対象としたコミュニケーション講座講師の経験で獲得した国語（日本語）の能力を高める手法を活用する。言語知識としての習得及び言語運用をしながら体験を含め、「楽しみながら学ぶ」授業展開をしていく。知識のインプットと表現のアウトプットをバランスよく授業時間内に配置し、主体的・対話的で深い学びの体感を持てるようにする。</p>
到達目標	<p>○子どもの言語能力をささえる保育・教育者に必要な知識として「日本語」及び「言語獲得」に関する知識を深めること、子どもの言語の獲得のプロセスについて理解すること、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における「言葉の獲得に関する領域（言葉）」の解釈及び理解をすること、保育・教育の場での言語活動の用意のための手法を考えることを授業の目標とする。</p> <p>以上を到達目標とすることにより、学科のディプロマポリシーに掲げる「豊かな教養と倫理観を身につけること」をはじめとして、【知識・技能】【使命感・思考力】【人間力・指導力】【創造的な保育や教育】に関する資質・能力を有する教育者となることを目指す。</p>
計画・内容	<p>第1回 イン트로ダクション 児童文化財と絵本ポートフォリオ作成</p> <p>第2回 模擬保育1：準備 絵本読み聞かせの準備と練習</p> <p>第3回 模擬保育1：実践発表 絵本の読み聞かせ発表</p> <p>第4回 模擬保育1：実践発表 絵本読み聞かせ発表とふりかえり</p> <p>第5回 あそび歌ポートフォリオ作成</p> <p>第6回 模擬保育2：準備 あそび歌実践の準備と練習</p> <p>第7回 模擬保育2：実践発表 あそび歌発表</p> <p>第8回 模擬保育2：実践発表 あそび歌演習発表とふりかえり</p>

2025年度 東京西学部時間割

授業の進め方	○各回テーマが異なるため、各回の授業目標と授業内で提示する設問について説明する時間をとる。各回のテーマごとに異なるメンバーで話し合いの時間を持ち、チームで考える時間と全体で共有し、理解を深める時間を配分しながら授業を展開していく。また、各回の授業の最後に、ふりかえりのコメントシートを提出する。
能動的な学びの実施	○学生相互で考えを伝え合い、一つの課題について合意形成・課題解決をする時間を持つ（チームで話し合うアクティブラーニングの形式を導入）。また、授業ごとにコメントシートに「新しい発見」を記入し、ポートフォリオとしてふりかえり、学修の深まりを実感できるようにする。
授業時間外の学修	○各回テーマが異なるため、授業終了後の復習として、授業内容をまとめておくこと ○教科書である「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」を読み、記述内容の把握と理解をしておくこと 約15時間相当の予習及び復習の時間を持つこと
教科書・参考書	教科書：幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 参考書：幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説 小林晴美・佐々木正人『新・子どもたちの言語獲得』大修館書店
成績評価方法と基準	○授業参加及びコメントシート提出50%、演習発表50%にて、総合的に評価する。
課題等に対するフィードバック	○コメントシートでのふりかえりを授業の最初に紹介し、疑問や質問から考えを深めていく時間を持つ。
オフィスアワー	○CampusSquareを参照
留意事項	○考えを応答する時間や思考のアウトプットの多い授業となるため、体調やぐあいが悪いと十分な学びができなくなるので、健康に留意して授業に臨むこと。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方：Zoomによるオンライン授業にて実施する。 成績評価方法と基準：Zoom受講及びコメントシート提出50%、レポート作成25%、演習発表25%にて、総合的に評価する。。

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	子どもと造形表現（幼保コース）
授業コード	AI169B
英語名称	Children and Art Expression
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	藤井 志帆
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	<p>* 本科目は幼保コース学生対象とし、幼児の造形表現に関する知識を身につけ、それを援助する為に必要な基礎的な知識や技術を身につけることを目的とし、制作を通して素材と用具の基礎的な理解や経験を促すと共に表現方法の発見や発展へ導く過程を理解する。</p> <p>幼児の造形表現に関する知識を身につけ、それを援助する為に必要な基礎的な知識や技術を身につける。制作を通して素材と用具の基礎的な理解や経験を促すと共に表現方法の発見や発展へと導く。</p>
科目に関連する実務経験と授業への活用	<p>* 10年以上に渡り、幼児・児童対象の造形指導の経験を活かし、幼稚園教諭を目指す上で必要な表現・造形における様々な表現技法や、造形指導時の幼児に対する援助方法について、指導する。</p>
到達目標	<p>* 到達目標は次の5つとなる</p> <p>(1) 幼児の造形表現において適切な素材や技法を知り、道具の使い方を身につける。</p> <p>(2) 自己の表現と共に、他者の表現の楽しさ・美しさを理解、共有できるようになる。</p> <p>(3) 鑑賞能力と共に、プレゼンテーションの力を身につける。</p> <p>(4) 保育者として求められる造形指導の専門的知識（基礎）を身につける。</p> <p>(5) 身につけた専門的知識を教育活用するのみならず、効果的教育手法の開発を志向し、実践する思考を育てる。</p> <p>尚、本科目は、ディプロマポリシーに掲げる【知識・技能】【使命感・思考力】【人間力・指導力】【創造的な保育や教育】に関する資質・能力を身につけることを目指す。</p>
計画・内容	<p>第1回：ガイダンス 本授業の構成について《前期》 平面造形(1)「モダンテクニックを活用した表現」 -1 技法(ドリッピング・にじみたらし込み)と用具の説明 用具についてワークシートを用いて理解をする（絵の具・用具について）</p> <p>第2回：平面造形(1)「モダンテクニックを活用した表現」 -2 「水中世界は色いろいろ」をテーマにアイデアスケッチ・制作</p> <p>第3回：平面造形(1)「モダンテクニックを活用した表現」 -1 技法(スクラッチ・パチック)と用具の説明 用具についてワークシートを用いて理解をする（クレヨン・クレパス・パステル）</p> <p>第4回：平面造形(1)「モダンテクニックを活用した表現」 -2 「かがやく私の手」をテーマにアイデアスケッチ・制作</p> <p>第5回：平面造形(1)「モダンテクニックを活用した表現」 -1 技法(デカルコマニー・フロッタージュ・コラージュ)と用具の説明 用具についてワークシートを用いて理解をする（はさみ）</p> <p>第6回：平面造形(1)「モダンテクニックを活用した表現」 -2 「見つけた葉を見つめたら」をテーマにアイデアスケッチ・制作</p>

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	<p>第7回：平面造形(1)「モダンテクニックを活用した表現」 -1 技法(マーブリング・スパッタリング)と用具の説明 用具についてワークシートを用いて理解をする(カッターナイフ) マーブリング・スパッタリング用型の制作</p> <p>第8回：平面造形(1)「モダンテクニックを活用した表現」 -2 技法(スタンピング)と用具の説明 「宇宙の果てはこんな場所」をテーマにアイデアスケッチ・制作</p> <p>第9回：平面造形(1)「モダンテクニックを活用した表現」 -3 「宇宙の果てはこんな場所」をテーマに制作</p> <p>第10回：素材探究 粘土についてー 粘土の種類と特性、用具の説明 WS：小麦粉粘土・紙粘土制作。</p> <p>第11回：立体造形(1)「紙を使った立体表現」 「かお」をテーマにアイデアスケッチ・制作</p> <p>第12回：立体造形(1)「紙を使った立体表現」 「かお」をテーマに制作(張子)</p> <p>第13回：立体造形(1)「紙を使った立体表現」 「かお」をテーマに制作(張子)・着彩</p> <p>第14回：立体造形(1)「紙を使った立体表現」 「かお」をテーマに制作 着彩・仕上げ</p> <p>第15回：まとめ 作品のプレゼンテーション、相互鑑賞</p>
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> * 制作の進行具合によって計画・内容は随時変更する * 個人制作、グループ制作を行い、様々な表現方法を体験する * 材料、道具は一部大学で用意するが、個人で材料、道具を準備し、授業で使用する場合もある * 作品のプレゼンテーション、相互鑑賞を通し、作るだけでなく、伝えることも体験する
能動的な学びの実施	<ul style="list-style-type: none"> * 授業の内容や制作における振り返りを毎回行い、授業の理解を深める * 課題毎に自身の作品についてプレゼンテーションを行い、教員と学生、また学生間で意見交換を行う * グループ課題を設け、課題について全員でディスカッションを行いながら、制作を行う
授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> * 授業前にアイデアソース集めや制作準備を行うこと(各回1~2時間程度) * 授業後に授業で説明を受けた素材・用具・技法について調べ、理解を深めると共に説明、制作時の記録を制作ノートにまとめること(各回1~2時間程度)
教科書・参考書	<ul style="list-style-type: none"> * 教科書：なし ・ 題材ごとに資料を配布する ・ 必要な用具・材料等について事前準備を指示する <p>* 参考書：チャイルド本社発行『幼稚園教育要領/保育所保育指針/幼保連携型認定こども園教育・保育要領』</p>
成績評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> * 定期試験は実施しない * 平常点(授業参加の状況：出席回数、態度、授業への積極性等)20%、提出物(作品、写真、制作ノート)80%により総合的に評価する
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> * 制作時において学生からの質問や疑問等についてその都度個別に対応する * プレゼンテーションにおいて学生の発表毎にコメントを行う

2025年度 東京西学部時間割

課題等に対するフィードバック	* 制作ノートはコメントを付与して返却する
オフィスアワー	* CampusSquareを参照
留意事項	<p>* 本科目は幼稚園教諭・保育士資格取得のための必須科目、保育実習1（保育所・施設）を履修するための基幹科目としての位置付けとなる。</p> <p>* 授業参加に際し、各自エプロン（もしくは作業時に汚れても良い服）・色鉛筆・クレヨン・水彩絵の具を準備すること。内容については初回授業時に説明を行う。</p> <p>* 授業への積極的な参加を期待する。課題を通して様々な素材に触れ、素材の特性や可能性等を広く探求すること。</p> <p>* 授業内だけでは制作時間が足りない場合は、空き時間に制作対応を行うが、図画工作の授業以外でも図工室を使用するため、授業内に完成できるよう計画的に制作を進めること。</p> <p>* 使用する道具や材料によって取り扱いに注意の必要なものもあるため、きちんと説明を聞き対応をすること。</p>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>オンライン(Zoom)、オンデマンド(YouTubeによる動画視聴)、課題学修による授業を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期試験は実施しない ・平常点（オンライン授業参加の状況：出席回数、態度、授業への積極性等）20%、提出物（作品、写真、制作ノート）80%により総合的に評価する

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	子どもと造形表現（幼保コース）
授業コード	AI262B
英語名称	Children and Art Expression
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	藤井 志帆
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	* 本科目は幼保コース学生対象とし、「子どもと造形表現」の内容をふまえ、幼児の造形表現に関する知識を身につけ、それを援助する為に必要な実践的な知識や技術を身につける。制作を通して素材と用具の実践的な理解や経験を促すと共に表現方法の発見や発展へと導く過程を理解する。実習へ向け、造形活動のプログラムを企画、立案、実施できるようになる。
科目に関連する実務経験と授業への活用	* 10年以上に渡り、幼児・児童対象の造形指導の経験を活かし、幼稚園教諭を目指す上で必要な表現・造形における様々な表現技法や、造形指導時の幼児に対する援助方法について、指導する。
到達目標	<p>* 到達目標は次の5つとなる</p> <p>(1) 幼児の造形表現において適切な素材や技法を知り、道具の使い方を身につける。</p> <p>(2) 自己の表現と共に、他者の表現の楽しさ・美しさを理解、共有できるようになる。</p> <p>(3) 鑑賞能力と共に、プレゼンテーションの力を身につける。</p> <p>(4) 保育者として求められる造形活動のプログラムの企画、立案、実施ができるようになる。</p> <p>(5) 身につけた専門的知識を教育活用するのみならず、効果的教育手法の開発を志向し、実践する思考を育てる。</p> <p>尚、本科目は、ディプロマポリシーに掲げる【知識・技能】【使命感・思考力】【人間力・指導力】【創造的な保育や教育】に関する資質・能力を身につけることを目指す。</p>
計画・内容	<p>第1回：ガイダンス 本授業の構成について 立体造形(1)「紙粘土を使った立体表現」 課題説明「思い出のお弁当」、素材・用具説明、アイデアスケッチ・制作</p> <p>第2回：立体造形(1)「紙粘土を使った立体表現」 「思い出のお弁当」テーマに制作</p> <p>第3回：立体造形(1)「紙粘土を使った立体表現」 「思い出のお弁当」テーマに制作・着彩</p> <p>第4回：立体造形(1)「紙粘土を使った立体表現」 「思い出のお弁当」テーマに制作・着彩</p> <p>第5回：立体造形(1)「紙粘土を使った立体表現」 「思い出のお弁当」テーマに制作・着彩・仕上げ 作品・制作の振り返り</p> <p>第6回：作品のプレゼンテーション、相互鑑賞</p> <p>第7回：平面造形(1)「ペーパーステンドグラス」 グループワーク 課題説明、技法説明、アイデアスケッチ</p>

2025年度 東京西学部時間割

<p>計画・内容</p>	<p>第8回：平面造形(1)「ペーパーステンドグラス」 グループワーク 制作（下書き、配色決め、制作用紙の準備）</p> <p>第9回：平面造形(1)「ペーパーステンドグラス」 グループワーク 制作（カット・フィルム貼り）</p> <p>第10回：平面造形(1)「ペーパーステンドグラス」 グループワーク 制作（カット・フィルム貼り、フレーム作り）</p> <p>第11回：平面造形(2)「草木染め」 課題説明、技法説明、アイデアスケッチ</p> <p>第12回：平面造形(2)「草木染め」 制作</p> <p>第13回：平面造形(2)「草木染め」 制作</p> <p>第14回：平面造形(2)「草木染め」 制作</p> <p>第15回：まとめ プレゼンテーション 自作作品について発表・講評、相互鑑賞</p>
<p>授業の進め方</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 制作の進行具合によって計画・内容は随時変更する * 個人制作、グループ制作を行い、様々表現方法を体験する * 材料、道具は一部大学で用意するが、個人で材料、道具を準備し、授業で使用する場合もある * 作品のプレゼンテーション、相互鑑賞を通し、作るだけでなく、伝えることも体験する 能動的な学びの実施 * 授業の内容や制作における振り返りを毎回行い、授業の理解を深める * 課題毎に自身の作品についてプレゼンテーションを行い、教員と学生、また学生間で意見交換を行う * グループ課題を設け、課題について全員でディスカッションを行いながら、制作を行う
<p>能動的な学びの実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 授業の内容や制作における振り返りを毎回行い、授業の理解を深める * 課題毎に自身の作品についてプレゼンテーションを行い、教員と学生、また学生間で意見交換を行う * グループ課題を設け、課題について全員でディスカッションを行いながら、制作を行う
<p>授業時間外の学修</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 授業前にアイデアソース集めや制作準備を行うこと（各回1～2時間程度） * 授業後に授業で説明を受けた素材・用具・技法について調べ、理解を深めると共に説明、制作時の記録を制作ノートにまとめること（各回1～2時間程度）
<p>教科書・参考書</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 教科書：なし <ul style="list-style-type: none"> ・ 題材ごとに資料を配布する ・ 必要な用具・材料等について事前準備を指示する * 参考書：チャイルド本社発行『幼稚園教育要領/保育所保育指針/幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
<p>成績評価方法と基準</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 定期試験は実施しない * 平常点（授業参加の状況：出席回数、態度、授業への積極性等）20%、提出物（作品、写真、制作ノート）80%により総合的に評価する
<p>課題等に対するフィードバック</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 制作時において学生からの質問や疑問等についてその都度個別に対応する * プレゼンテーションにおいて学生の発表毎にコメントを行う * 制作ノートはコメントを付与して返却する

2025年度 東京西学部時間割

オフィスアワー	* CampusSquareを参照
留意事項	<p>* 授業参加に際し、各自エプロン（もしくは作業時に汚れても良い服）・色鉛筆・クレヨン・水彩絵の具を準備すること。内容については初回授業時に説明を行う。</p> <p>* 授業への積極的な参加を期待する。課題を通して様々な素材に触れ、素材の特性や可能性等を広く探求すること。</p> <p>* 授業内だけでは制作時間が足りない場合は、空き時間に制作対応を行うが、図画工作の授業以外でも図工室を使用するため、授業内に完成できるよう計画的に制作を進めること。</p> <p>* 使用する道具や材料によって取り扱いに注意の必要なものもあるため、きちんと説明を聞き対応をすること。</p>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>オンライン(Zoom)、オンデマンド(YouTubeによる動画視聴)、課題学修による授業を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期試験は実施しない ・平常点（オンライン授業参加の状況：出席回数、態度、授業への積極性等）20%、提出物（作品、写真、制作ノート）80%により総合的に評価する

2025年度 東京西学部時間割

科目名称	保育の指導法（表現）
授業コード	AI330
英語名称	Teaching Methods for Child Care and Education (Expression)
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	藤井 志帆
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	<p>* 本科目は小幼コース・幼保コース学生を対象とし、幼児期の子どもを対象として、豊かな子ども文化の創造に貢献するための高度な専門知識と実践的スキルを身につけることを目的とし、保育指導の中核をなす「表現」を造形という側面から捉え、造形活動のプログラムを企画、立案、実施できるよう様々な材料研究を行い実践に繋げる。</p> <p>* 学外発表会『こどもフェスティバル』（7月に上野原市文化ホールで開催）での実践発表を行う。</p>
科目に関連する実務経験と授業への活用	* 10年以上に渡り、幼児・児童対象の造形指導の経験を活かし、保育者を目指す上で必要な表現・造形における様々な表現技法や、造形指導時の幼児に対する援助方法について、指導する。
到達目標	<p>* 到達目標は次の4つとなる</p> <p>(1) 幼児期の子どもを対象として、豊かな子ども文化の創造に貢献するための高度な専門的知識と実践的スキルを身につける。</p> <p>(2) 幅広い表現方法（手段）の習得と実践方法を学ぶことを目的とする。</p> <p>(3) 造形活動のプログラムの企画、立案、実施ができるようになる。</p> <p>(4) 身につけた専門的知識を教育活用するのみならず、効果的教育手法の開発を志向し、実践する思考を育てる。</p> <p>尚、本科目は、ディプロマポリシーに掲げる【知識・技能】【使命感・思考力】【人間力・指導力】【創造的な保育や教育】に関する資質・能力を身につけることを目指す。</p>
計画・内容	<p>第1回：ガイダンス 材料研究-1 画材と支持体の関係</p> <p>第2回：材料研究-2 色・絵の具</p> <p>第3回：材料研究-3 紙</p> <p>第4回：材料研究-4 粘土</p> <p>第5回：材料研究-5 光</p> <p>第6回：指導計画について</p> <p>第7回：模擬授業 1歳以上3歳未満児における造形活動</p> <p>第8回：模擬授業 1歳以上3歳未満児における造形活動</p> <p>第9回：模擬授業 3歳以上児における造形活動</p>

2025年度 東京西学部時間割

計画・内容	<p>第10回：模擬授業 3歳以上児における造形活動</p> <p>第11回：模擬授業 3歳以上児における造形活動</p> <p>第12回：空間構成の実践 表現発表会 舞台空間・展示空間の計画・準備・制作</p> <p>第13回：空間構成の実践 表現発表会 舞台空間・展示空間の制作</p> <p>第14回：空間構成の実践 表現発表会</p> <p>第15回：空間構成の実践 表現発表会</p>
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> * 制作の進行具合によって計画・内容は随時変更する * 個人制作、グループ制作を行い、様々な表現方法を体験する * 材料、道具は一部大学で用意するが、個人で材料、道具を準備し、授業で使用する場合もある * 作品のプレゼンテーション、相互鑑賞を通し、作るだけでなく、伝えることも体験する * 表現発表会に向け、展示空間や舞台空間の構成を体験する。
能動的な学びの実施	<ul style="list-style-type: none"> * 授業の内容や制作における振り返りを毎回行い、授業の理解を深める * 課題毎に自身の作品についてプレゼンテーションを行い、教員と学生、また学生間で意見交換を行う * グループ課題を設け、課題について全員でディスカッションを行いながら、制作を行う
授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> * 授業前にアイデアソース集めや制作準備を行うこと（各回1～2時間程度） * 授業後に授業で説明を受けた素材・用具・技法について調べ、理解を深めると共に説明、制作時の記録を制作ノートにまとめること（各回1～2時間程度）
教科書・参考書	<ul style="list-style-type: none"> * 教科書：なし ・ 題材ごとに資料を配布する ・ 必要な用具・材料等について事前準備を指示する * 参考書：チャイルド本社発行『幼稚園教育要領/保育所保育指針/幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
成績評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> * 定期試験は実施しない * 平常点（授業参加の状況：出席回数、態度、授業への積極性等）20%、提出物（作品、写真、制作ノート）80%により総合的に評価する <p>学外表現発表会『こどもフェスティバル』を7月に上野原市文化ホールで開催。</p>
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> * 授業時において学生からの質問や疑問等についてその都度個別に対応する * 制作ノートはコメントを付与して返却する
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> * CampusSquareを参照
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> * 本科目は幼保コース卒業必須科目、幼稚園教諭・保育士資格取得のための必須科目としての位置付けとなる。 * 授業参加に際し、各自エプロン（もしくは作業時に汚れても良い服）・色鉛筆・クレヨン・水彩絵の具を準備すること。内容については初回授業時に説明を行う。 * 授業への積極的な参加を期待する。様々な素材に触れ、素材の特性や可能性等を広く探求すること。 * 授業内だけでは制作時間が足りない場合は、空き時間に制作対応を行うが、図画工作の授業以外にも図工室を使用するため、授業内に完成できるように計画的に制作を進めること。 * 使用する道具や材料によって取り扱いに注意の必要なものもあるため、きちんと説明を聞き対応すること。

2025年度 東京西学部時間割

非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	オンライン(Zoom)、オンデマンド(YouTubeによる動画視聴)、課題学修による授業を行う。 ・定期試験は実施しない。 ・平常点(オンライン授業参加の状況:出席回数、態度、授業への積極性等)20%、提出物(作品、写真、制作ノート)80%の総合評価。
------------------------------------	--